

男女共同参画に関する
市民意識調査結果

平成27年度
湖西市

1. 調査概要.....	1
I 調査目的.....	1
II 調査設計.....	1
III 回収結果.....	1
IV 報告書をみる際の注意事項.....	1
2. 調査結果.....	3
I 属性.....	3
<1. 性別>.....	3
<2. 年齢>.....	3
<3. 家族構成>.....	4
<4. 就業状況>.....	5
<5. 結婚状況>.....	6
<6. 夫婦の就業状況>.....	7
<7. 高校生以下の子どもの有無>.....	8
<8. 介護・介助の必要な家族の有無>.....	9
II 言葉・考え方について.....	10
<9. 『男女共同参画』の認知>.....	10
<10. 『ユニバーサルデザイン』の認知>.....	11
<11. 『多文化共生』の認知>.....	12
III 社会における男女平等について.....	13
<12. 性別役割分担意識についての考え方>.....	13
<13. 優遇度>.....	14
<14. 男女平等社会実現のために大切なこと>.....	15
<15. 男女平等社会実現のために行政が力を入れるべきこと>.....	17
IV 家庭生活における役割分担について.....	19
<16. 家庭生活の役割分担>.....	19
<17. 男女の役割分担についての考え方>.....	20
V 職業や労働について.....	21
<18. 「女性と職業」についての考え方>.....	21
<19. 女性が働く上での障害>.....	22
<20. 男性が育児休業をとることについての考え方>.....	24
<21. 男性が介護休業をとることについての考え方>.....	25
<22. 男性の育児休業の取得しやすさ>.....	26
<23. 男性の介護休業の取得しやすさ>.....	27

VI	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	28
	<24. ワーク・ライフ・バランスの認知>	28
	<25. 仕事、家庭生活、プライベートの希望の優先度>	29
	<26. 仕事、家庭生活、プライベートの現実の優先度>	30
VII	セクシュアル・ハラスメントについて	31
	<27. セクハラ経験の有無>	31
	<28. セクハラへの対応>	32
VIII	ドメスティック・バイオレンス（DV）について	33
	<29. DV経験の有無>	33
	<30. DVへの対応>	34
IX	防災・復興について	35
	<31. 東日本大震災前後の意識の変化>	35
	<32. 災害対応への女性参画のために必要な施策>	36
X	男女の社会参加について	38
	<33. 参加している活動>	38
	<34. 活動していない理由>	40
	<35. 市政への女性の意見の反映>	42
	<36. 湖西市審議会等の女性委員が少ない理由>	43
	<37. 男女共同参画についての自由意見>	44
3.	調査票	47

1. 調査概要

1. 調査概要

I 調査目的

男女共同参画や多文化共生に関する市民の意識を把握し、今後の施策の参考にするとともに、平成23年に策定した湖西市男女共同参画推進計画「女と男のプラン」の全面改訂の基礎資料とするために実施しました。

II 調査設計

調査対象：湖西市在住の18歳以上の男女

調査方法：郵送配布・郵送回収

抽出方法：無作為抽出

調査期間：平成27年7月7日（火）～平成27年7月21日（火）

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

III 回収結果

発送数：1,500件

回収数：514件（無効票1件）

有効回収数：513件

有効回収率：34.2%

※無効票とは、回収されたが無記入あるいは記入が少ない調査票のことです。

IV 報告書をみる際の注意事項

- 比率は百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。
- 調査数はNとして記載し、回答比率はこれを100%として算出しています。
- 複数回答が可能な設問の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

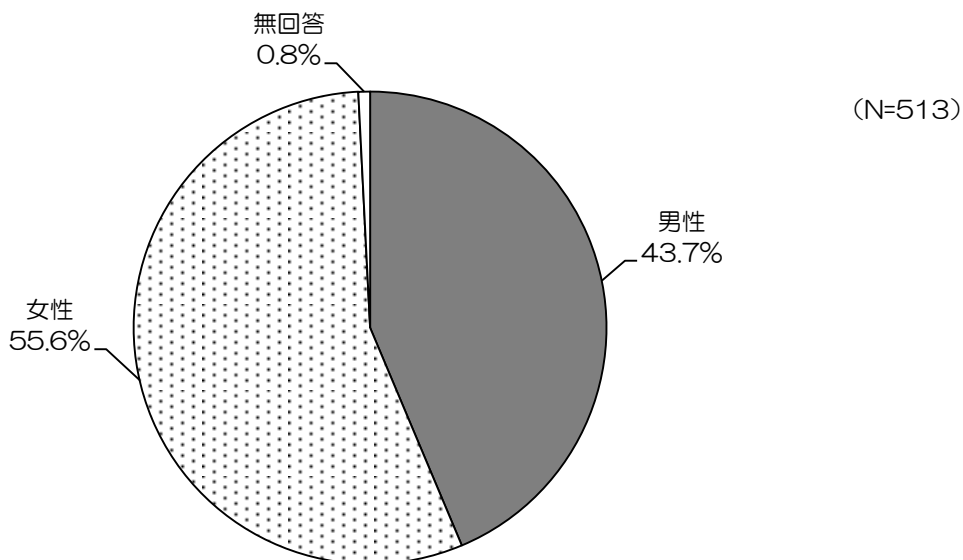
2. 調査結果

2. 調査結果

I 属性

<1. 性別>

問1 あなたの性別をお答えください。(1つを選択)

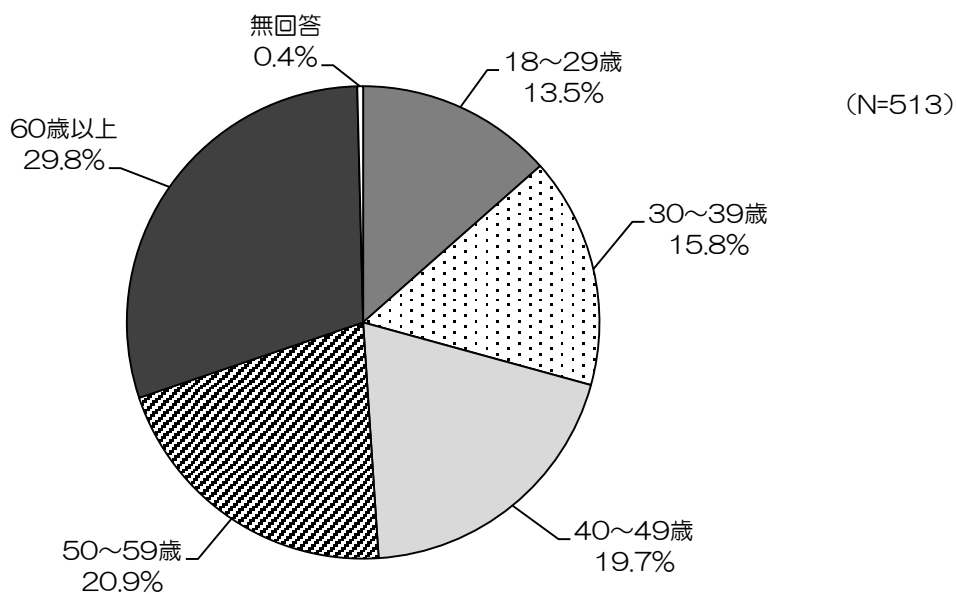


性別は、「男性」が43.7%、「女性」が55.6%となっています。

<2. 年齢>

問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(1つを選択)

※6月1日現在の年齢をお選びください。

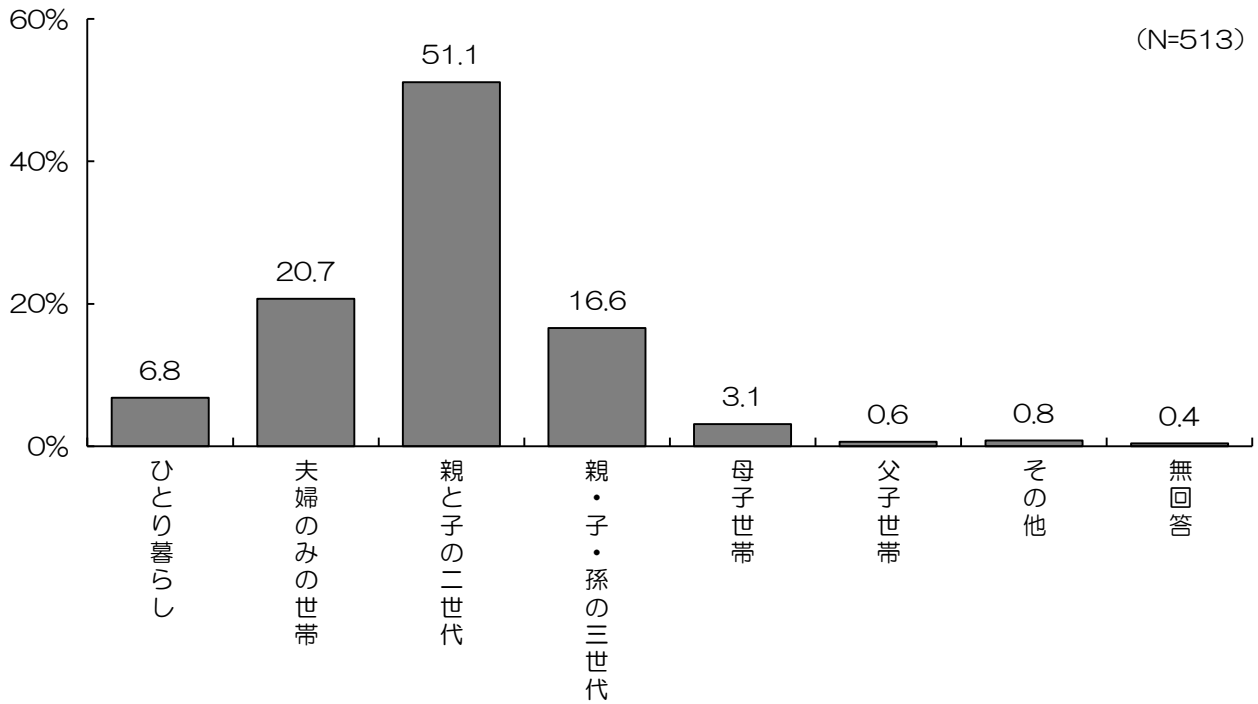


年齢は、「18~29歳」が13.5%、「30~39歳」が15.8%、「40~49歳」が19.7%、「50~59歳」が20.9%、「60歳以上」が29.8%となっています。

〈3. 家族構成〉

問3 あなたの家族構成（同居している家族）は次のどれにあてはまりますか。

（1つを選択）



（単位：%（調査数は人））

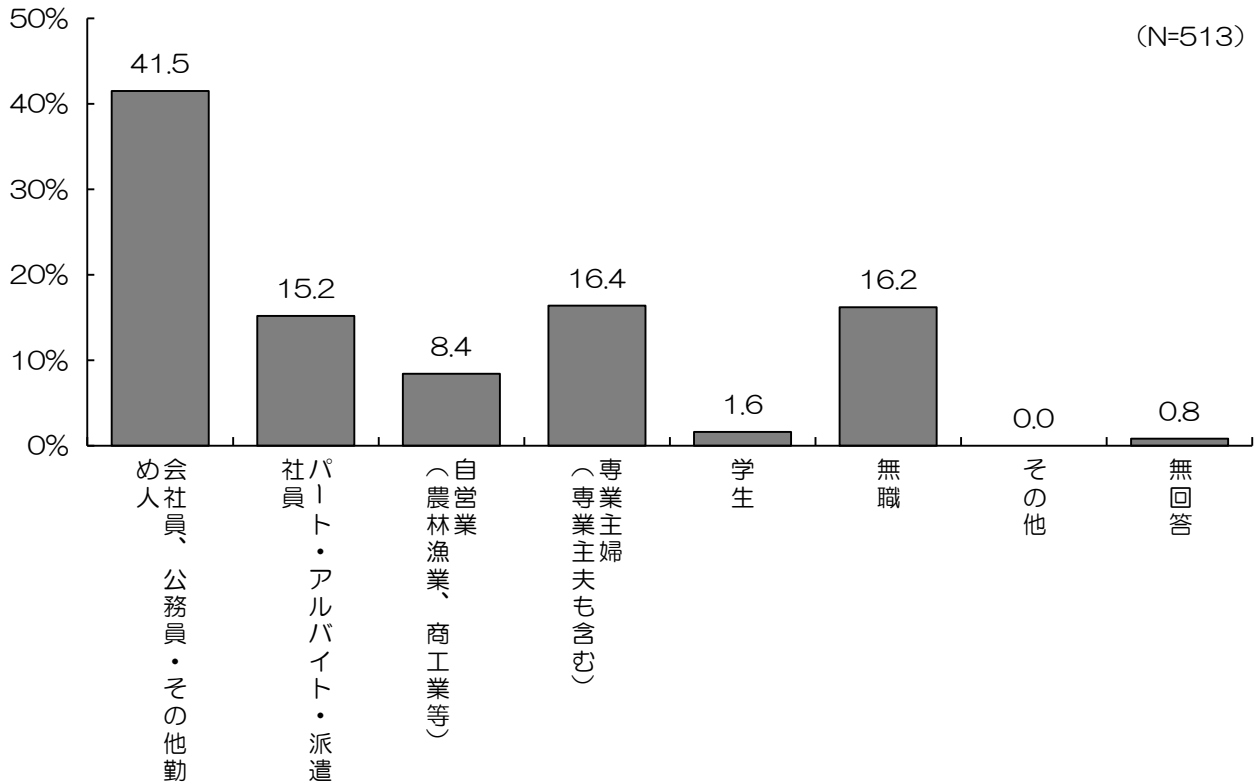
	調査数	ひとり暮らし	夫婦のみの世帯	親と子の二世帯	親・子・孫の三世帯	母子世帯	父子世帯	その他	無回答
全体	513	6.8	20.7	51.1	16.6	3.1	0.6	0.8	0.4
男性	224	8.5	23.7	51.8	12.1	2.2	1.3	0.4	0.0
女性	285	5.6	18.2	50.9	20.0	3.9	0.0	1.1	0.4
18～29歳	69	13.0	8.7	44.9	23.2	7.2	0.0	2.9	0.0
30～39歳	81	7.4	11.1	64.2	11.1	4.9	0.0	1.2	0.0
40～49歳	101	3.0	9.9	61.4	18.8	5.0	1.0	0.0	1.0
50～59歳	107	3.7	27.1	42.1	25.2	0.9	0.9	0.0	0.0
60歳以上	153	8.5	33.3	47.1	9.2	0.7	0.7	0.7	0.0

家族構成は、「親と子の二世帯」が51.1%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が20.7%、「親・子・孫の三世帯」が16.6%などとなっています。

〈4. 就業状況〉

問4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。

(兼業の方は主なものをお選びください。)(1つを選択)



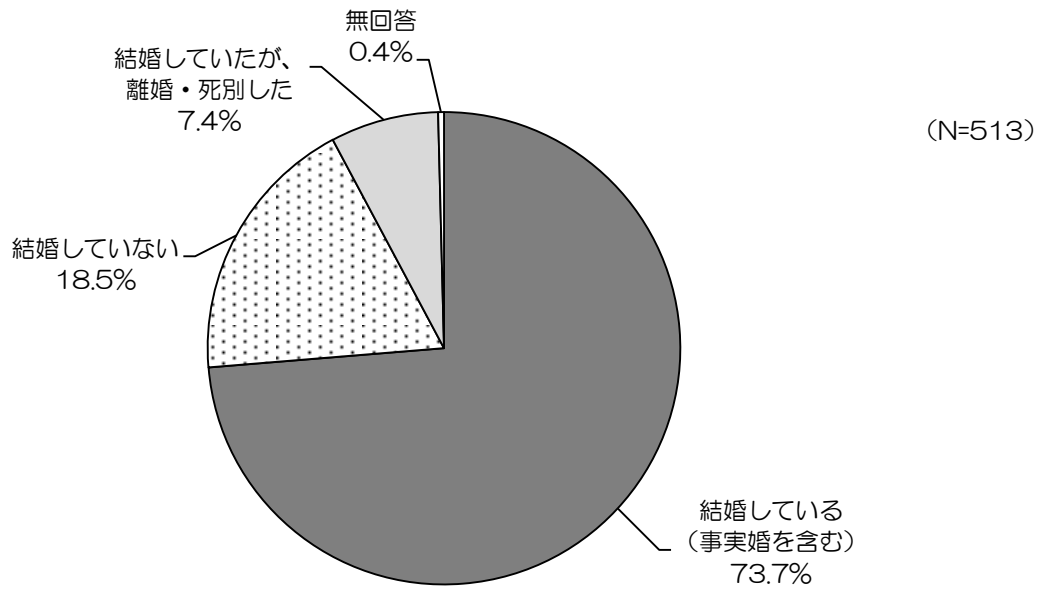
(単位：% (調査数は人))

	調査数	会社員、公務員・その他勤め人	パート・アルバイト・派遣社員	自営業 (農林漁業、商工業等)	専業主婦 (専業主夫も含む)	学生	無職	その他	無回答
全体	513	41.5	15.2	8.4	16.4	1.6	16.2	0.0	0.8
男性	224	59.8	3.1	12.5	0.0	1.3	22.8	0.0	0.4
女性	285	27.4	24.6	4.9	29.5	1.8	11.2	0.0	0.7
18~29歳	69	66.7	4.3	0.0	13.0	11.6	4.3	0.0	0.0
30~39歳	81	50.6	16.0	2.5	29.6	0.0	1.2	0.0	0.0
40~49歳	101	57.4	24.8	5.0	10.9	0.0	1.0	0.0	1.0
50~59歳	107	51.4	22.4	7.5	13.1	0.0	4.7	0.0	0.9
60歳以上	153	8.5	8.5	18.3	17.0	0.0	47.1	0.0	0.7

就業状況は、「会社員、公務員・その他勤め人」が41.5%と最も多く、次いで「専業主婦 (専業主夫も含む)」が16.4%、「無職」が16.2%などとなっています。

<5. 結婚状況>

問5 あなたは結婚していますか。(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

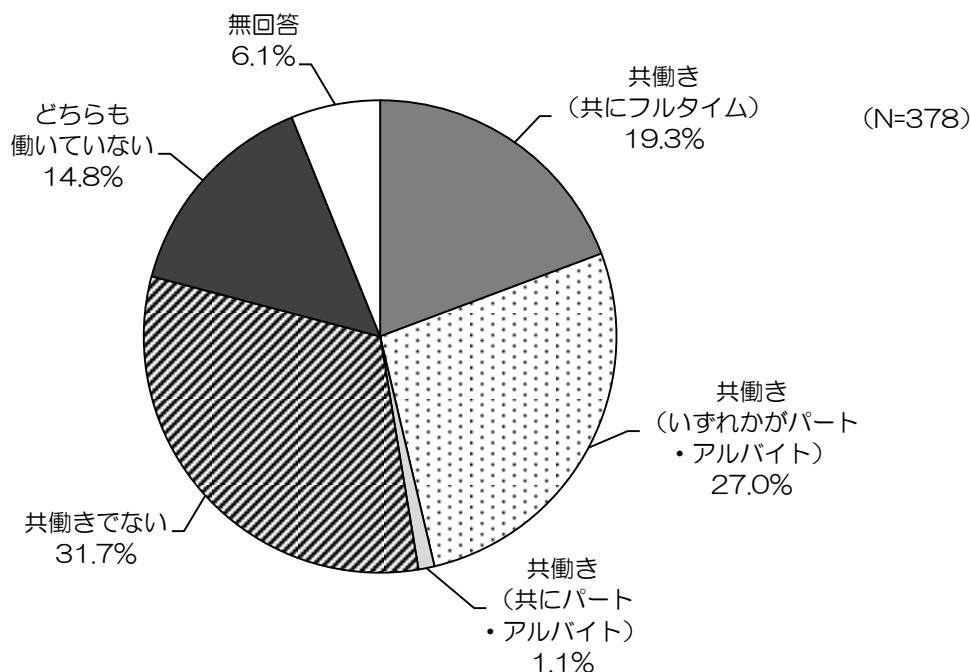
	調査数	結婚している (事実婚を含む)	結婚していない	結婚していたが、離婚・死別した	無回答
全体	513	73.7	18.5	7.4	0.4
男性	224	73.7	23.2	3.1	0.0
女性	285	73.7	15.1	10.9	0.4
18~29歳	69	27.5	71.0	1.4	0.0
30~39歳	81	76.5	18.5	4.9	0.0
40~49歳	101	75.2	15.8	7.9	1.0
50~59歳	107	85.0	8.4	6.5	0.0
60歳以上	153	84.3	3.9	11.8	0.0

結婚状況は、「結婚している (事実婚を含む)」が73.7%、「結婚していない」が18.5%、「結婚していたが、離婚・死別した」が7.4%となっています。

<6. 夫婦の就業状況>

<問5で「1. 結婚している（事実婚を含む）」とお答えの方に伺います。>

問6 現在、共働きをしていますか。（1つを選択）



(単位：% (調査数は人))

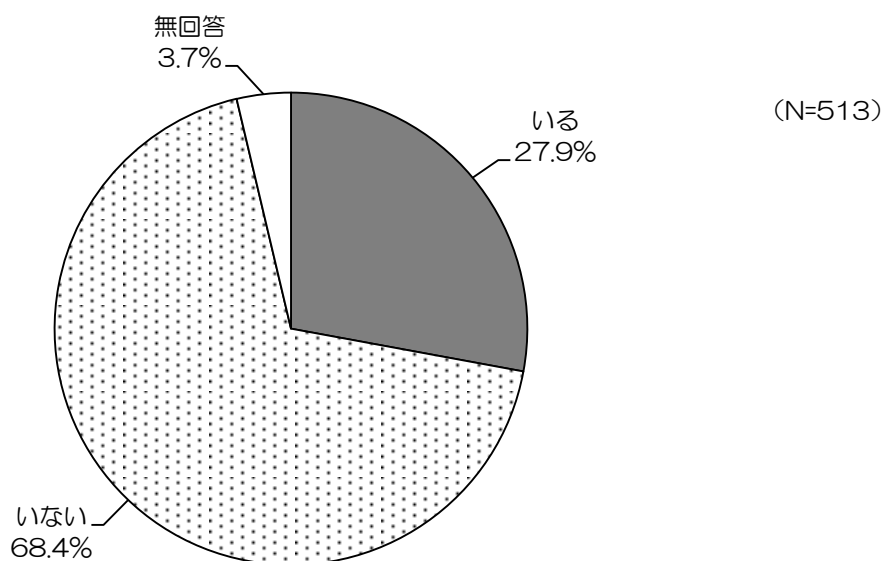
	調査数	共働き (共にフルタイム)	共働き (いずれかがパート・アルバイト)	共働き (共にパート・アルバイト)	共働きでない	どちらも働いていない	無回答
全体	378	19.3	27.0	1.1	31.7	14.8	6.1
男性	165	18.2	28.5	0.6	30.3	18.8	3.6
女性	210	20.5	25.7	1.4	32.4	11.9	8.1
18~29歳	19	26.3	15.8	0.0	52.6	0.0	5.3
30~39歳	62	21.0	24.2	0.0	51.6	1.6	1.6
40~49歳	76	28.9	42.1	0.0	26.3	0.0	2.6
50~59歳	91	19.8	45.1	1.1	29.7	2.2	2.2
60歳以上	129	11.6	8.5	2.3	23.3	41.1	13.2

夫婦の就業状況は、「共働きでない」が31.7%と最も多く、次いで「共働き (いずれかがパート・アルバイト)」が27.0%、「共働き (共にフルタイム)」が19.3%などとなっています。

年齢別にみると、“40~49歳”で「共働き (共にフルタイム)」が28.9%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

<7. 高校生以下の子どもの有無>

問7 あなたは高校生以下のお子さんがいらっしゃいますか。(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

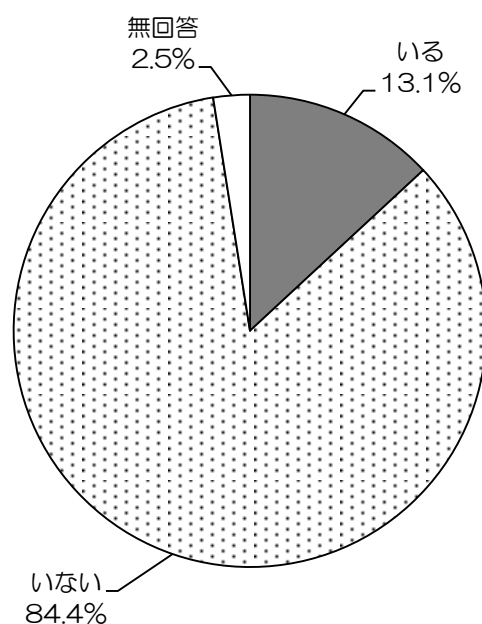
	調査数	いる	いない	無回答
全体	513	27.9	68.4	3.7
男性	224	25.0	71.4	3.6
女性	285	30.2	66.0	3.9
18~29歳	69	18.8	71.0	10.1
30~39歳	81	60.5	35.8	3.7
40~49歳	101	58.4	37.6	4.0
50~59歳	107	14.0	83.2	2.8
60歳以上	153	3.9	94.8	1.3

高校生以下の子どもの有無は、「いる」が27.9%、「いない」が68.4%となっています。
年齢別にみると、「30~39歳」で「いる」が60.5%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

〈8. 介護・介助の必要な家族の有無〉

問8 あなたを含めたご家族の中に介護・介助が必要な方がいらっしゃいますか。

(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

	調査数	いる	いない	無回答
全体	513	13.1	84.4	2.5
男性	224	12.5	86.2	1.3
女性	285	13.3	83.5	3.2
18~29歳	69	4.3	91.3	4.3
30~39歳	81	8.6	88.9	2.5
40~49歳	101	9.9	87.1	3.0
50~59歳	107	21.5	75.7	2.8
60歳以上	153	15.7	83.7	0.7

介護・介助の必要な家族の有無は、「いる」が13.1%、「いない」が84.4%となっています。

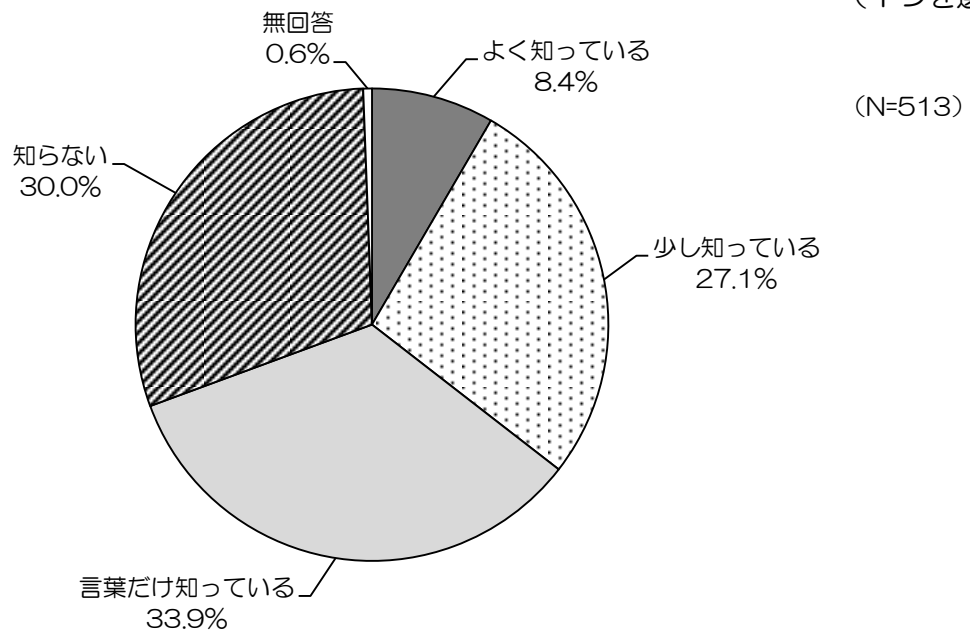
年齢別にみると、“50~59歳”で「いる」が21.5%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

Ⅱ 言葉・考え方について

＜9. 『男女共同参画』の認知＞

問9 『男女共同参画』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。

(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

	調査数	よく知っている	少し知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	513	8.4	27.1	33.9	30.0	0.6
男性	224	13.4	31.3	29.9	25.4	0.0
女性	285	4.6	24.2	37.2	33.3	0.7
18～29歳	69	13.0	36.2	29.0	21.7	0.0
30～39歳	81	1.2	17.3	28.4	53.1	0.0
40～49歳	101	5.9	25.7	30.7	37.6	0.0
50～59歳	107	11.2	27.1	39.3	22.4	0.0
60歳以上	153	9.8	29.4	37.3	22.2	1.3

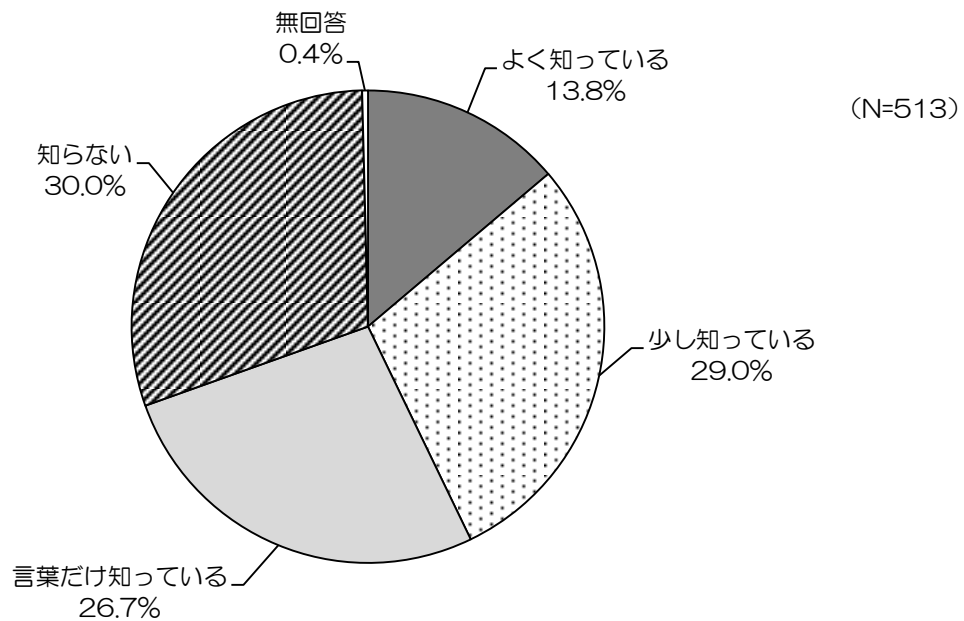
『男女共同参画』の認知は、「言葉だけ知っている」が33.9%と最も多く、次いで「知らない」が30.0%、「少し知っている」が27.1%、「よく知っている」が8.4%となっています。

年齢別にみると、“30～39歳”で「知らない」が53.1%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

<10. 『ユニバーサルデザイン』の認知>

問10 『ユニバーサルデザイン』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。

(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

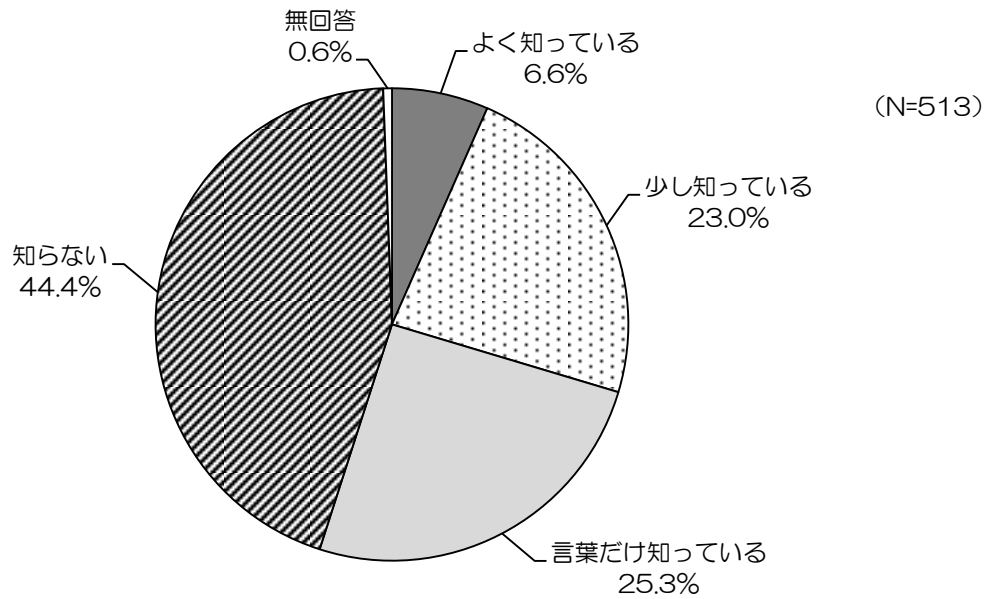
	調査数	よく知っている	少し知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	513	13.8	29.0	26.7	30.0	0.4
男性	224	18.8	26.3	26.3	28.6	0.0
女性	285	10.2	31.6	27.0	30.9	0.4
18~29歳	69	31.9	36.2	10.1	21.7	0.0
30~39歳	81	9.9	33.3	21.0	35.8	0.0
40~49歳	101	13.9	39.6	23.8	22.8	0.0
50~59歳	107	15.0	29.9	27.1	28.0	0.0
60歳以上	153	7.2	16.3	38.6	37.3	0.7

『ユニバーサルデザイン』の認知は、「知らない」が30.0%と最も多く、次いで「少し知っている」が29.0%、「言葉だけ知っている」が26.7%、「よく知っている」が13.8%となっています。

年齢別にみると、“18~29歳”で「よく知っている」が31.9%と、他の年齢と比べて目立って多くなっています。

<11. 『多文化共生』の認知>

問11 『多文化共生』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

	調査数	よく知っている	少し知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	513	6.6	23.0	25.3	44.4	0.6
男性	224	10.7	26.3	24.1	38.8	0.0
女性	285	3.5	20.7	26.7	48.4	0.7
18~29歳	69	13.0	24.6	26.1	36.2	0.0
30~39歳	81	2.5	23.5	9.9	64.2	0.0
40~49歳	101	2.0	25.7	29.7	42.6	0.0
50~59歳	107	12.1	18.7	24.3	44.9	0.0
60歳以上	153	5.2	23.5	30.7	39.2	1.3

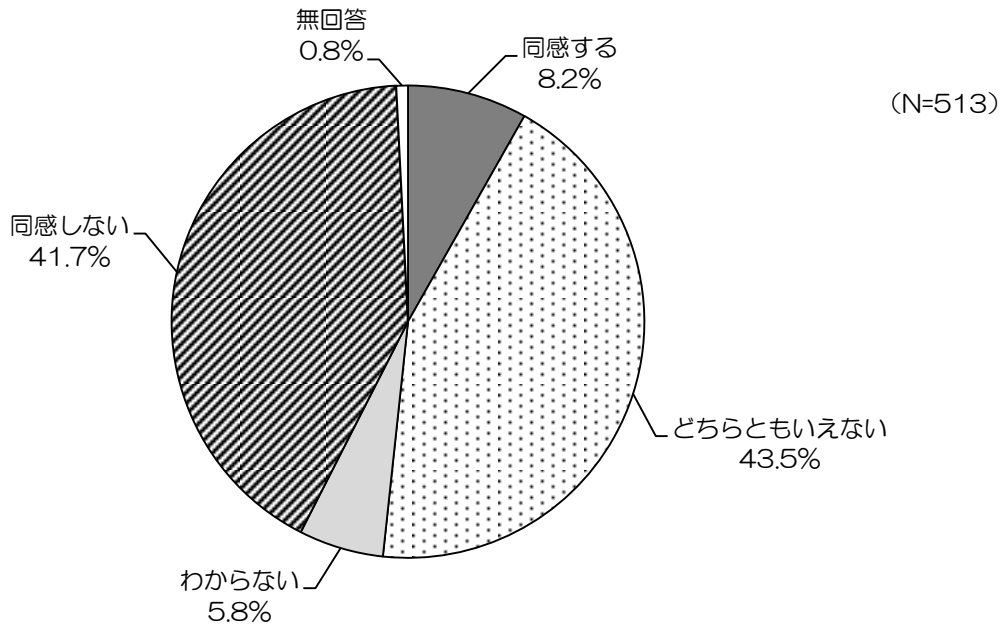
『多文化共生』の認知は、「知らない」が44.4%と最も多く、次いで「言葉だけ知っている」が25.3%、「少し知っている」が23.0%などとなっています。

性別にみると、“男性”で「よく知っている」が10.7%と、“女性”と比べて7.2ポイント多くなっています。

Ⅲ 社会における男女平等について

＜12. 性別役割分担意識についての考え方＞

問12 『男は仕事、女は家庭』というような男女の役割を固定的に考えること（性別役割分担意識）について、あなたはどのようにお考えですか。（1つを選択）



(単位：% (調査数は人))

	調査数	同意する	どちらともいえない	わからない	同意しない	無回答
全体	513	8.2	43.5	5.8	41.7	0.8
男性	224	12.5	46.0	4.0	37.5	0.0
女性	285	4.9	41.1	7.4	45.6	1.1
18～29歳	69	11.6	43.5	2.9	42.0	0.0
30～39歳	81	4.9	38.3	4.9	51.9	0.0
40～49歳	101	11.9	47.5	6.9	33.7	0.0
50～59歳	107	2.8	39.3	5.6	51.4	0.9
60歳以上	153	9.2	47.1	7.2	35.3	1.3

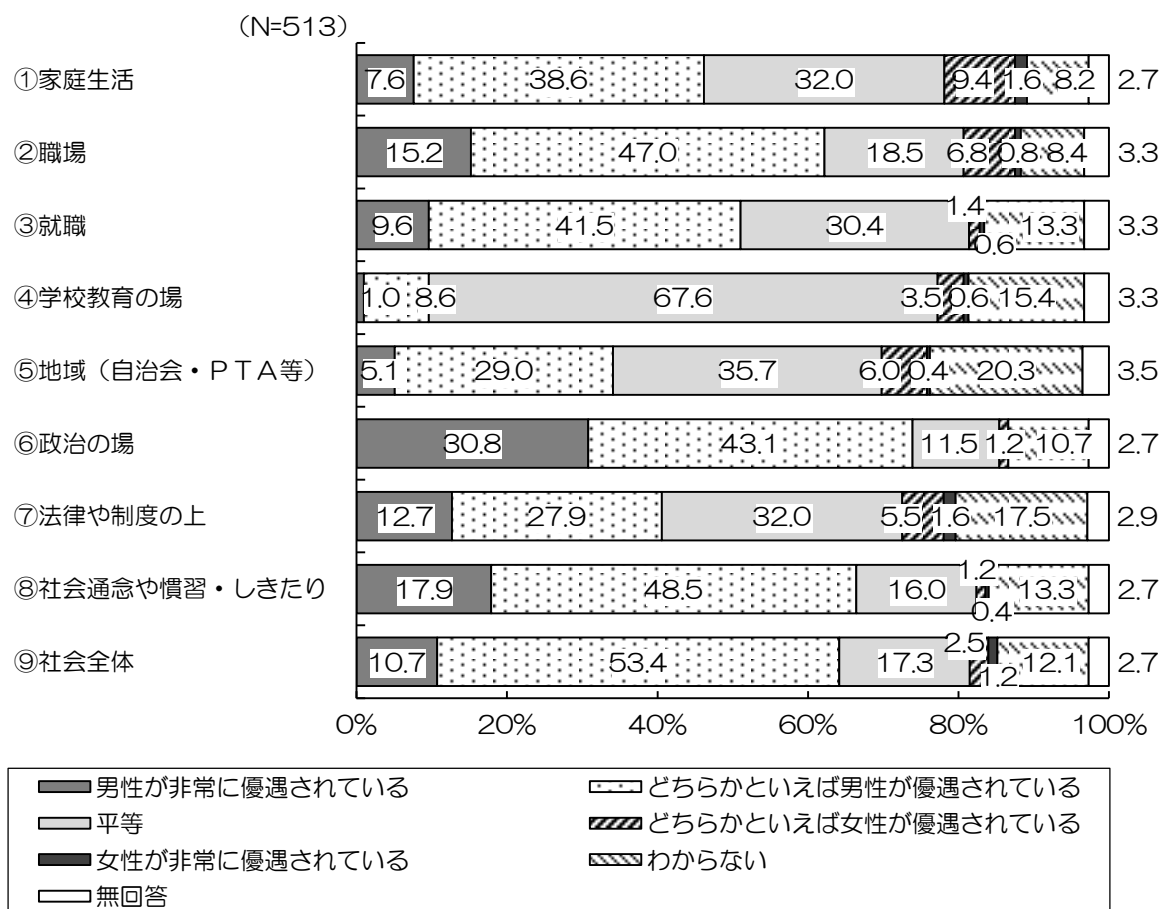
性別役割分担意識についての考え方は、「どちらともいえない」が43.5%と最も多く、次いで「同意しない」が41.7%、「同意する」が8.2%、「わからない」が5.8%となっています。

性別にみると、“男性”で「同意する」が12.5%と、“女性”と比べて7.6ポイント多くなっています。

<13. 優遇度>

問13 あなたは、次のことがらについて、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれ1つを選択)

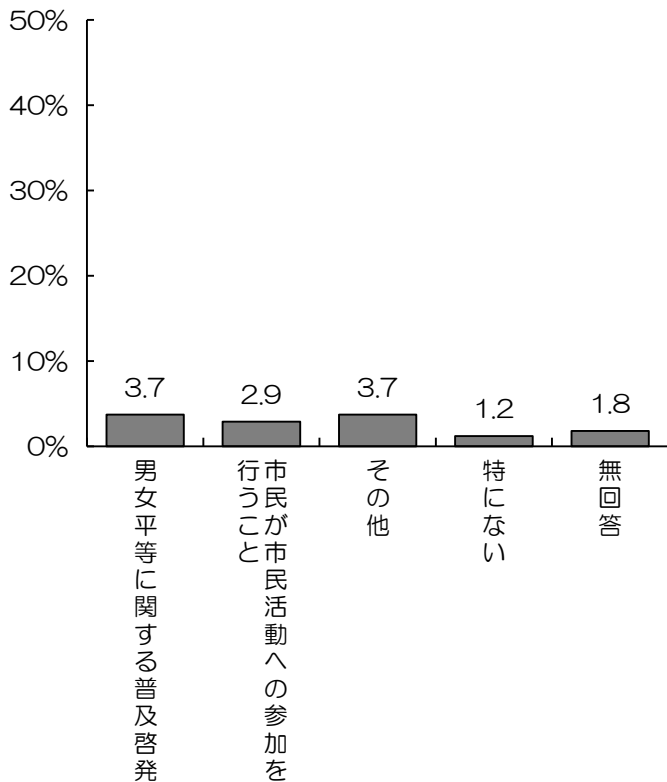
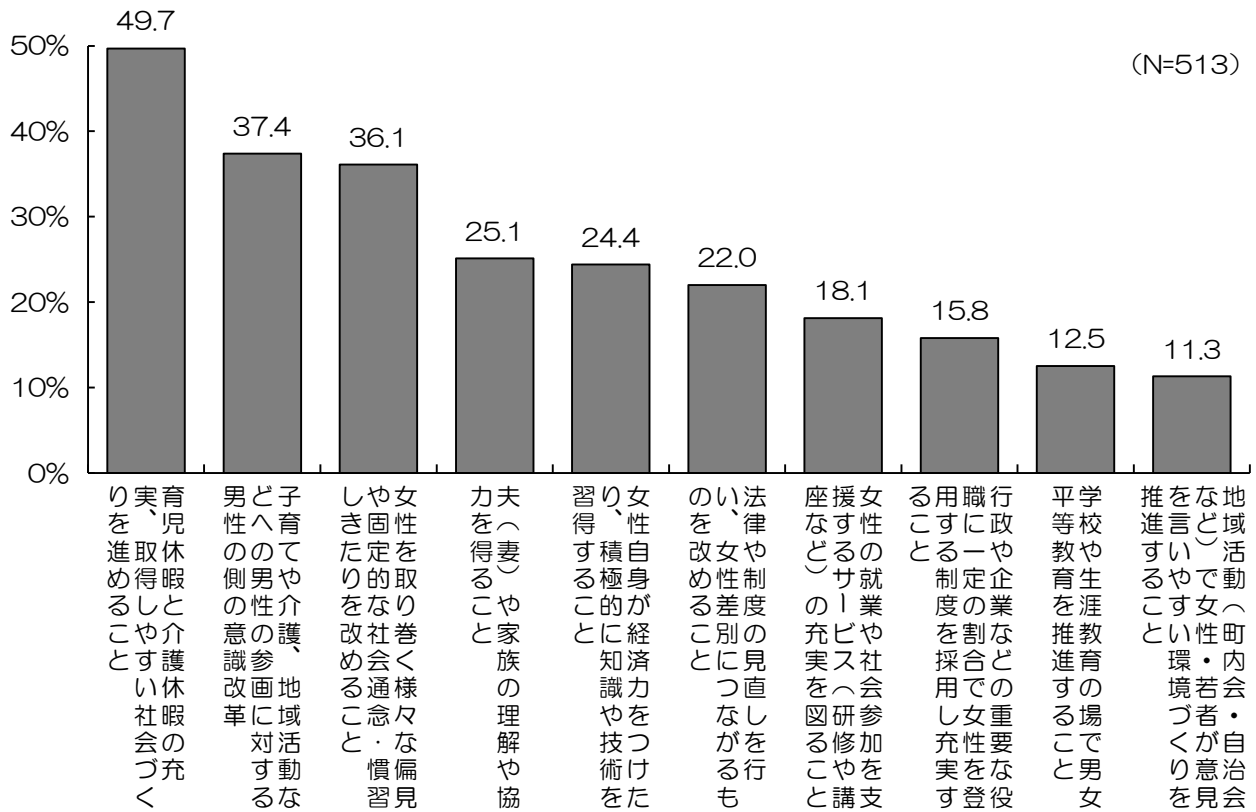


優遇度は、「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇されている』は“⑥政治の場”で73.9%と最も多くなっています。一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が非常に優遇されている」をあわせた『女性が優遇されている』は“①家庭生活”で11.0%と最も多くなっています。また、「平等」は“④学校教育の場”で67.6%と最も多くなっています。

<14. 男女平等社会実現のために大切なこと>

問14 男女平等社会を実現するために大切だと思うことはどのようなことですか。

(3つまで選択可)



(単位：％ (調査数は人))

	調査数	地域活動(町内会・自治会などで女性・若者が意見を言いやすい環境づくりを推進すること)	学校や生涯教育の場で男女平等教育を推進すること	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用し充実すること	女性の就業や社会参加を支援するサービス(研修や講座など)の充実を図ること	法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識や技術を習得すること	夫(妻)や家族の理解や協力を得ること	女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念・慣習しきたりを改めること	子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革	育児休暇と介護休暇の充実、取得しやすい社会づくりを進めること
全体	513	49.7	37.4	36.1	25.1	24.4	22.0	18.1	15.8	12.5	11.3
男性	224	44.2	29.9	33.5	25.9	21.9	27.7	12.9	20.5	11.2	12.1
女性	285	54.7	43.5	38.2	24.9	26.3	17.9	22.1	11.9	13.3	10.5
18～29歳	69	60.9	43.5	37.7	26.1	17.4	18.8	15.9	11.6	7.2	7.2
30～39歳	81	58.0	49.4	42.0	30.9	19.8	24.7	19.8	7.4	8.6	9.9
40～49歳	101	55.4	36.6	32.7	23.8	28.7	18.8	12.9	13.9	12.9	9.9
50～59歳	107	50.5	32.7	44.9	22.4	29.0	24.3	23.4	14.0	10.3	10.3
60歳以上	153	35.9	32.7	28.8	24.8	23.5	22.2	18.3	24.8	18.3	15.7

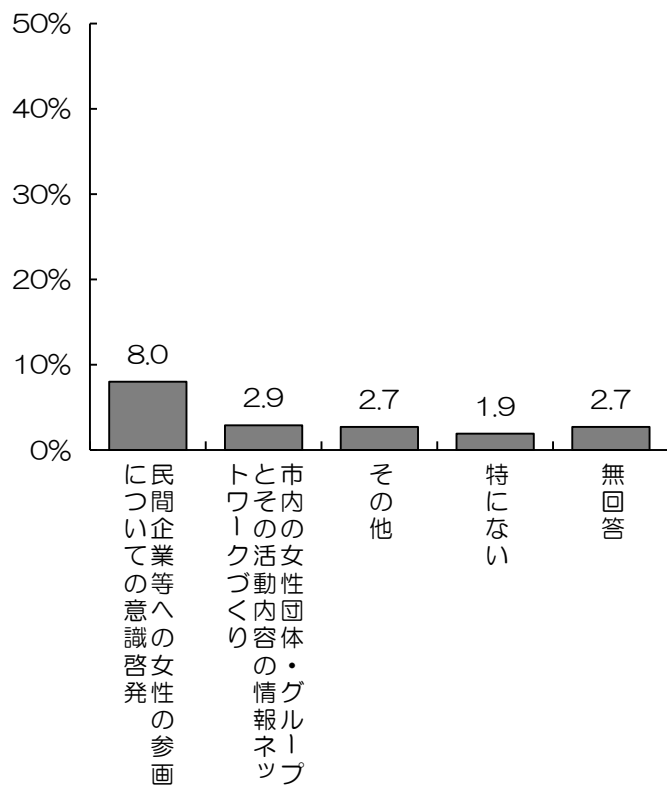
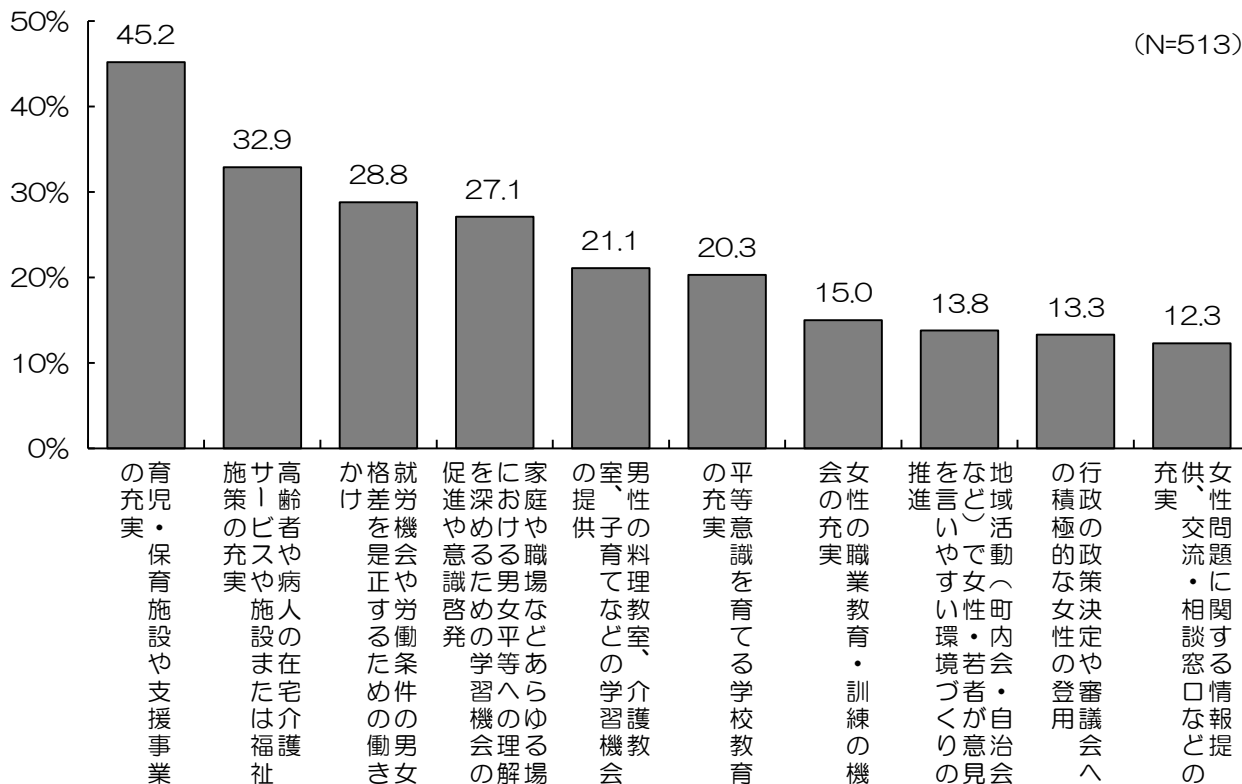
	調査数	男女平等に関する普及啓発	市民が市民活動への参加を行うこと	その他	特にない	無回答
全体	513	3.7	2.9	3.7	1.2	1.8
男性	224	6.3	5.4	4.9	1.8	1.3
女性	285	1.4	1.1	2.8	0.7	1.8
18～29歳	69	1.4	4.3	2.9	2.9	0.0
30～39歳	81	1.2	2.5	1.2	0.0	1.2
40～49歳	101	6.9	2.0	6.9	1.0	0.0
50～59歳	107	1.9	2.8	2.8	0.9	1.9
60歳以上	153	5.2	3.3	3.9	1.3	3.3

男女平等社会実現のために大切なことは、「育児休暇と介護休暇の充実、取得しやすい社会づくりを進めること」が49.7%と最も多く、次いで「子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革」が37.4%、「女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念・慣習しきたりを改めること」が36.1%などとなっています。

性別にみると、“女性”で「子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革」が43.5%と、“男性”と比べて13.6ポイント多くなっています。

<15. 男女平等社会実現のために行政が力を入れるべきこと>

問15 男女平等社会の実現を図るために、今後、行政はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。(3つまで選択可)



(単位：% (調査数は人))

	調査数	育児・保育施設や支援事業の充実	高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実	就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	学習機会の促進や意識啓発	家庭や職場などあらゆる場における男女平等への理解を深めるための学習機会の提供	男性の料理教室、介護教室、子育てなどの学習機会の提供	平等意識を育てる学校教育の充実	女性の職業教育・訓練の機会の充実	地域活動(町内会・自治会など)で女性・若者が意見を言いやすい環境づくりの推進	行政の政策決定や審議会への積極的な女性の登用	女性問題に関する情報提供、交流・相談窓口などの充実
全体	513	45.2	32.9	28.8	27.1	21.1	20.3	15.0	13.8	13.3	12.3	
男性	224	40.2	22.3	34.4	26.8	18.3	21.4	15.6	16.1	14.3	14.3	
女性	285	49.1	41.4	24.6	27.7	23.5	19.6	14.4	12.3	12.6	10.5	
18~29歳	69	60.9	17.4	20.3	21.7	37.7	14.5	11.6	7.2	10.1	15.9	
30~39歳	81	61.7	24.7	23.5	27.2	14.8	16.0	16.0	18.5	12.3	18.5	
40~49歳	101	45.5	32.7	39.6	23.8	21.8	18.8	16.8	8.9	11.9	7.9	
50~59歳	107	43.9	39.3	27.1	26.2	25.2	21.5	15.0	16.8	12.1	15.0	
60歳以上	153	30.1	39.2	30.1	32.0	13.7	24.8	15.0	15.7	17.0	8.5	

	調査数	民間企業等への女性の参画についての意識啓発	市内の女性団体・グループとその活動内容の情報ネットワークづくり	その他	特にない	無回答
全体	513	8.0	2.9	2.7	1.9	2.7
男性	224	8.0	2.7	4.0	3.6	1.8
女性	285	8.1	3.2	1.8	0.7	3.2
18~29歳	69	7.2	0.0	2.9	4.3	1.4
30~39歳	81	12.3	4.9	1.2	1.2	2.5
40~49歳	101	5.0	1.0	5.0	2.0	0.0
50~59歳	107	10.3	3.7	1.9	1.9	1.9
60歳以上	153	6.5	3.9	2.6	1.3	5.9

男女平等社会実現のために行政が力を入れるべきことは、「育児・保育施設や支援事業の充実」が45.2%と最も多く、次いで「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実」が32.9%、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」が28.8%などとなっています。

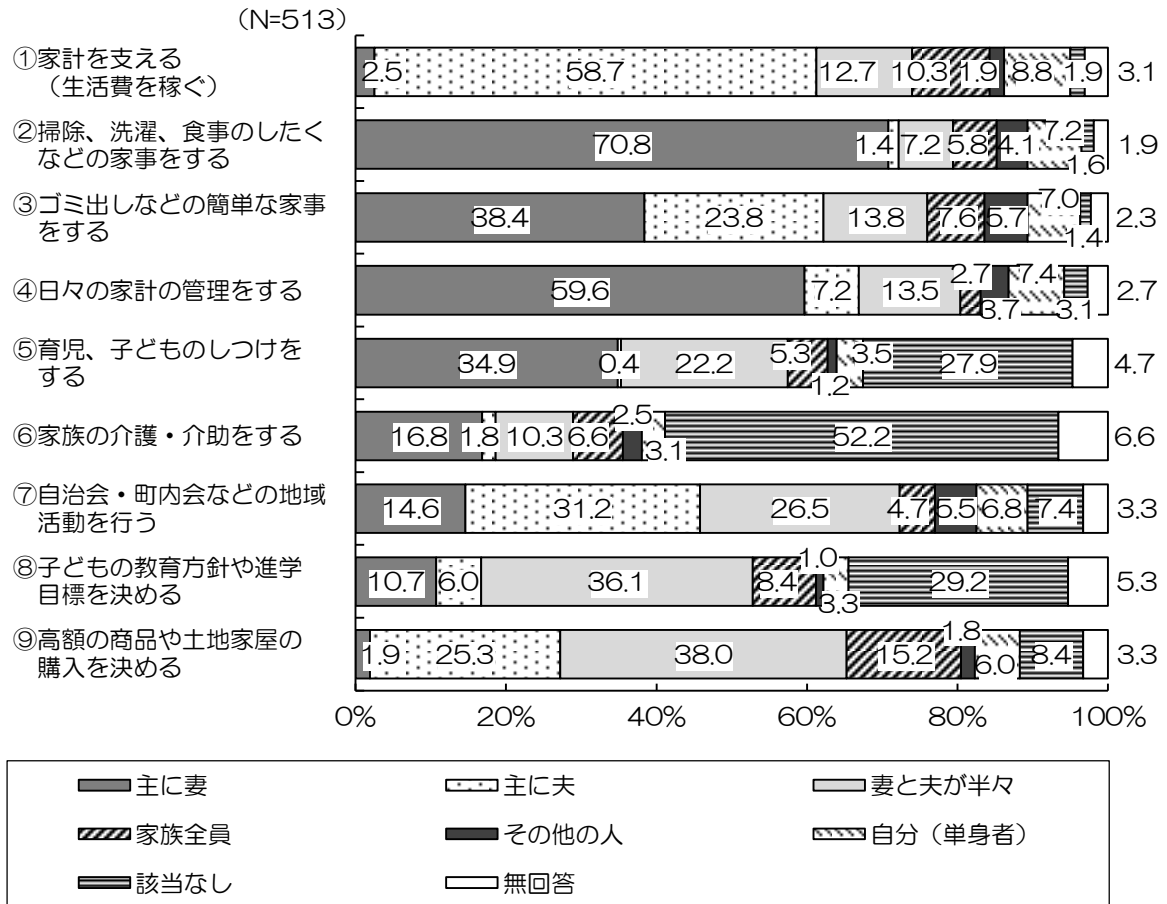
年齢別にみると、“60歳以上”では「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実」が39.2%と最も多くなっています。

Ⅳ 家庭生活における役割分担について

＜16. 家庭生活の役割分担＞

問16 あなたのご家庭では、次のことがらについて主に誰が分担していますか。

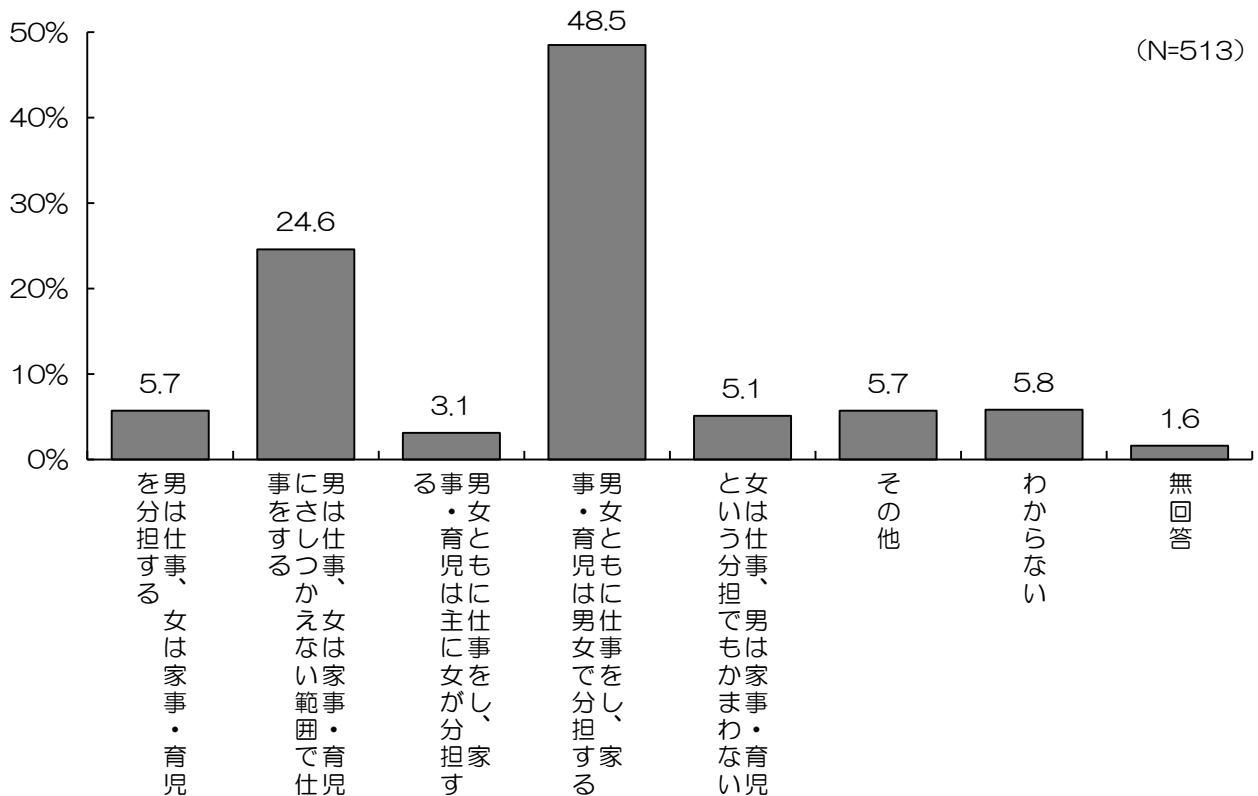
(それぞれ1つを選択)



家庭生活の役割分担は、「主に妻」は「②掃除、洗濯、家事のしたくなどの家事をする」で70.8%と最も多くなっています。一方、「主に夫」は「①家計を支える(生活費を稼ぐ)」で58.7%と最も多くなっています。また、「妻と夫が半々」は「⑨高額の商品や土地家屋の購入を決める」で38.0%と最も多くなっています。

<17. 男女の役割分担についての考え方>

問17 男女の役割分担について、本来はどうあるべきだと思いますか。（1つを選択）



(単位：% (調査数は人))

	調査数	男は仕事、女は家事・育児を分担する	男は仕事、女は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女が分担する	男女ともに仕事をし、家事・育児は男女で分担する	女は仕事、男は家事・育児という分担でもかまわない	その他	わからない	無回答
全体	513	5.7	24.6	3.1	48.5	5.1	5.7	5.8	1.6
男性	224	8.0	26.3	4.9	41.5	5.4	7.1	5.8	0.9
女性	285	3.9	23.2	1.4	54.0	4.9	4.6	6.0	2.1
18~29歳	69	4.3	13.0	2.9	59.4	7.2	4.3	8.7	0.0
30~39歳	81	7.4	23.5	3.7	48.1	3.7	8.6	4.9	0.0
40~49歳	101	7.9	26.7	2.0	31.7	10.9	9.9	6.9	4.0
50~59歳	107	3.7	24.3	3.7	52.3	3.7	7.5	4.7	0.0
60歳以上	153	5.2	29.4	2.6	52.3	2.0	0.7	5.2	2.6

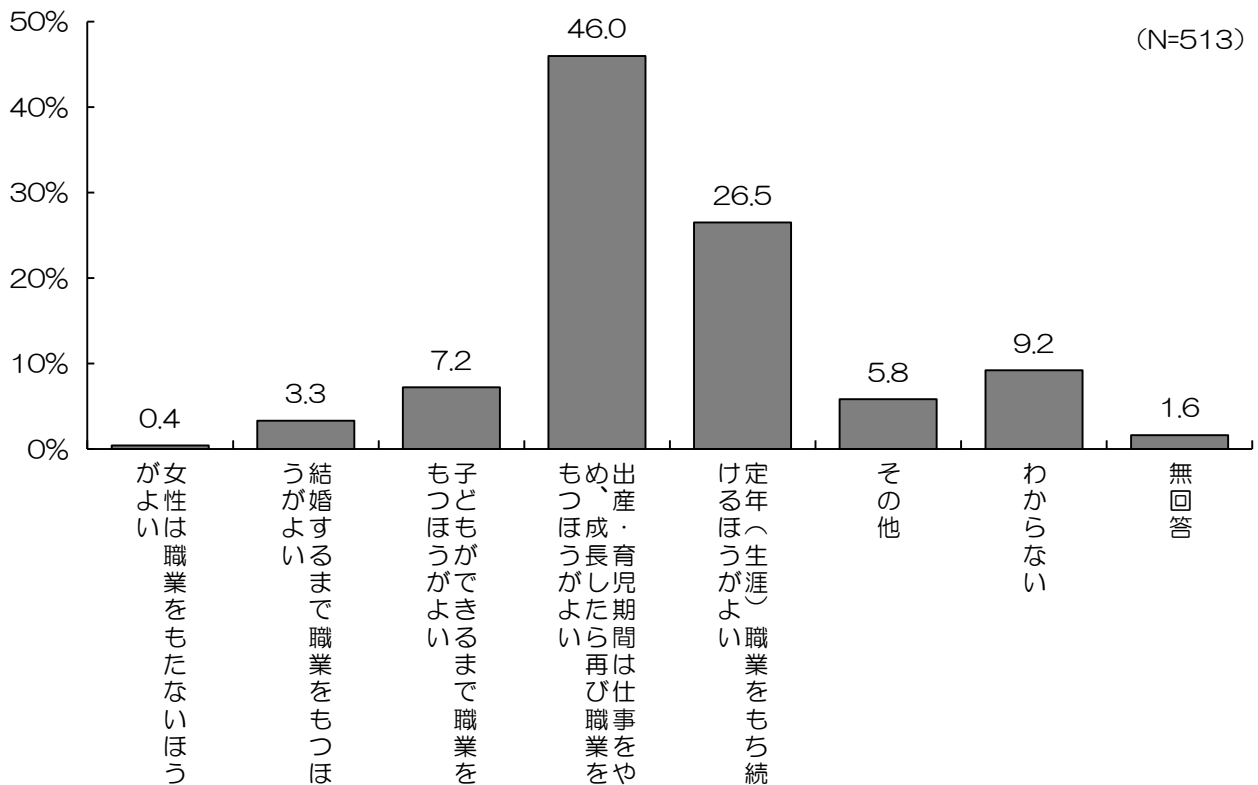
男女の役割分担についての考え方は、「男女ともに仕事をし、家事・育児は男女で分担する」が48.5%と最も多く、次いで「男は仕事、女は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が24.6%、「男は仕事、女は家事・育児を分担する」が5.7%などとなっています。

年齢別にみると、「40~49歳」で「女は仕事、男は家事・育児という分担でもかまわない」が10.9%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

V 職業や労働について

<18. 「女性と職業」についての考え方>

問18 あなたは、「女性と職業」についてどのようにお考えですか。（1つを選択）



(単位：% (調査数は人))

	調査数	女性が職業をもたないほうがよい	結婚するまで職業をもつほうがよい	子どもができるまで職業をもつほうがよい	出産・育児期間は仕事をやめ、成長したら再び職業をもつほうがよい	定年（生涯）職業をもち続けるほうがよい	その他	わからない	無回答
全体	513	0.4	3.3	7.2	46.0	26.5	5.8	9.2	1.6
男性	224	0.4	4.9	8.5	45.1	21.9	8.0	10.7	0.4
女性	285	0.4	2.1	6.3	46.7	30.2	4.2	8.1	2.1
18～29歳	69	0.0	7.2	8.7	42.0	26.1	7.2	8.7	0.0
30～39歳	81	0.0	1.2	11.1	49.4	23.5	6.2	8.6	0.0
40～49歳	101	0.0	3.0	5.9	42.6	26.7	8.9	11.9	1.0
50～59歳	107	0.9	0.9	4.7	53.3	23.4	6.5	8.4	1.9
60歳以上	153	0.7	4.6	7.2	43.8	30.1	2.6	8.5	2.6

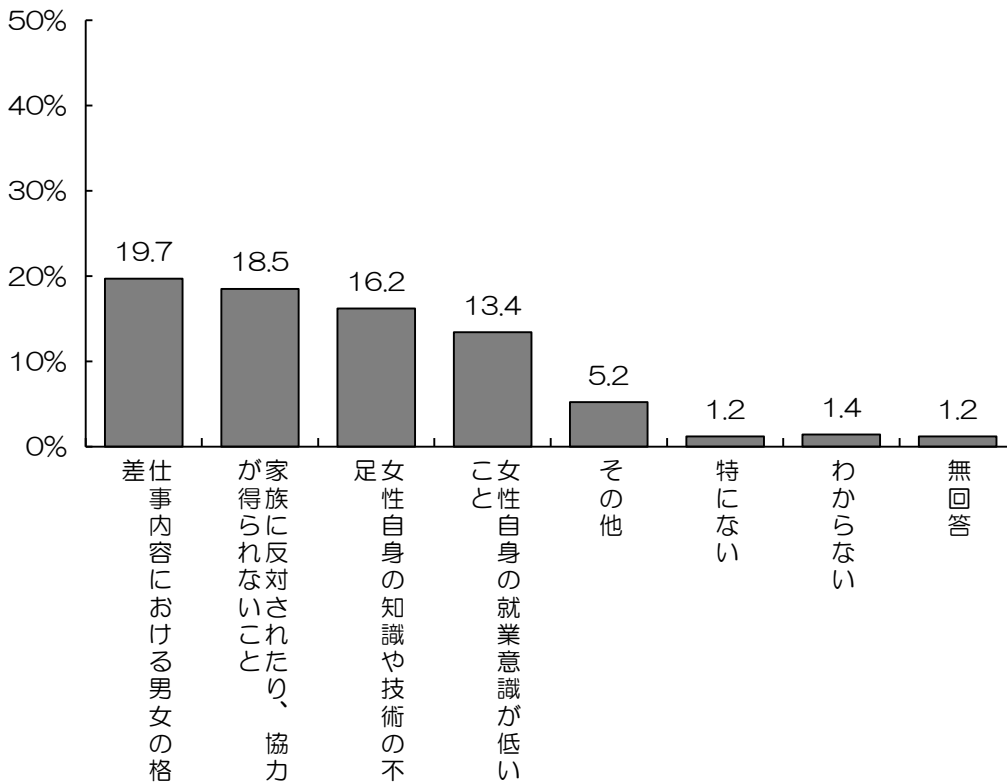
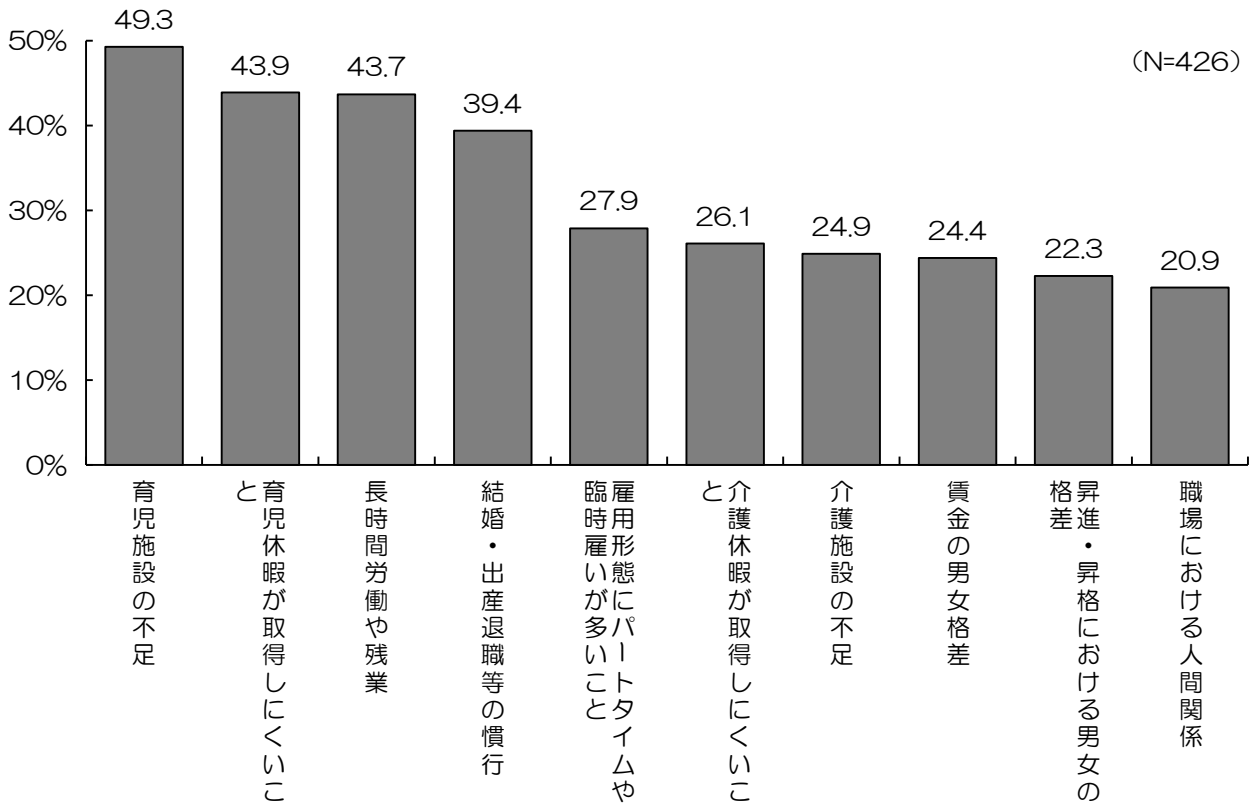
「女性と職業」についての考え方は、「出産・育児期間は仕事をやめ、成長したら再び職業をもつほうがよい」が46.0%と最も多く、次いで「定年（生涯）職業をもち続けるほうがよい」が26.5%、「子どもができるまで職業をもつほうがよい」が7.2%などとなっています。

年齢別にみると、“18～29歳”、“30～39歳”、“40～49歳”で「女性が職業をもたないほうがよい」と答えた方はいませんでした。

<19. 女性が働く上での障害>

<問18で「2.～5.」とお答えの方に伺います。>

問19 女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全て選択可)



(単位：% (調査数は人))

	調査数	育児施設の不足	育児休暇が取得しにくいこと	長時間労働や残業	結婚・出産退職等の慣行	雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと	介護休暇が取得しにくいこと	介護施設の不足	賃金の男女格差	昇進・昇格における男女の格差	職場における人間関係
全体	426	49.3	43.9	43.7	39.4	27.9	26.1	24.9	24.4	22.3	20.9
男性	180	43.3	42.8	40.6	41.1	25.0	18.9	21.7	22.2	26.1	14.4
女性	243	54.3	45.3	46.5	38.7	30.0	31.7	27.2	26.3	19.3	25.9
18～29歳	58	65.5	44.8	37.9	50.0	27.6	17.2	13.8	24.1	31.0	27.6
30～39歳	69	58.0	44.9	55.1	49.3	21.7	21.7	20.3	30.4	21.7	20.3
40～49歳	79	50.6	48.1	38.0	29.1	26.6	24.1	24.1	17.7	20.3	21.5
50～59歳	88	46.6	42.0	44.3	33.0	27.3	35.2	26.1	27.3	21.6	26.1
60歳以上	131	38.9	42.0	43.5	40.5	32.8	27.5	32.1	23.7	20.6	14.5

	調査数	仕事内容における男女の格差	家族に反対されたり、協力が得られないこと	女性自身の知識や技術の不足	女性自身の就業意識が低いこと	その他	特にない	わからない	無回答
全体	426	19.7	18.5	16.2	13.4	5.2	1.2	1.4	1.2
男性	180	29.4	12.2	15.0	16.1	3.3	1.7	1.7	0.0
女性	243	12.8	23.5	17.3	11.5	6.2	0.4	1.2	2.1
18～29歳	58	24.1	13.8	8.6	5.2	6.9	0.0	0.0	0.0
30～39歳	69	20.3	26.1	18.8	17.4	7.2	0.0	0.0	0.0
40～49歳	79	15.2	22.8	19.0	20.3	8.9	0.0	1.3	0.0
50～59歳	88	13.6	18.2	13.6	15.9	3.4	0.0	2.3	0.0
60歳以上	131	24.4	14.5	18.3	9.2	2.3	3.8	1.5	3.8

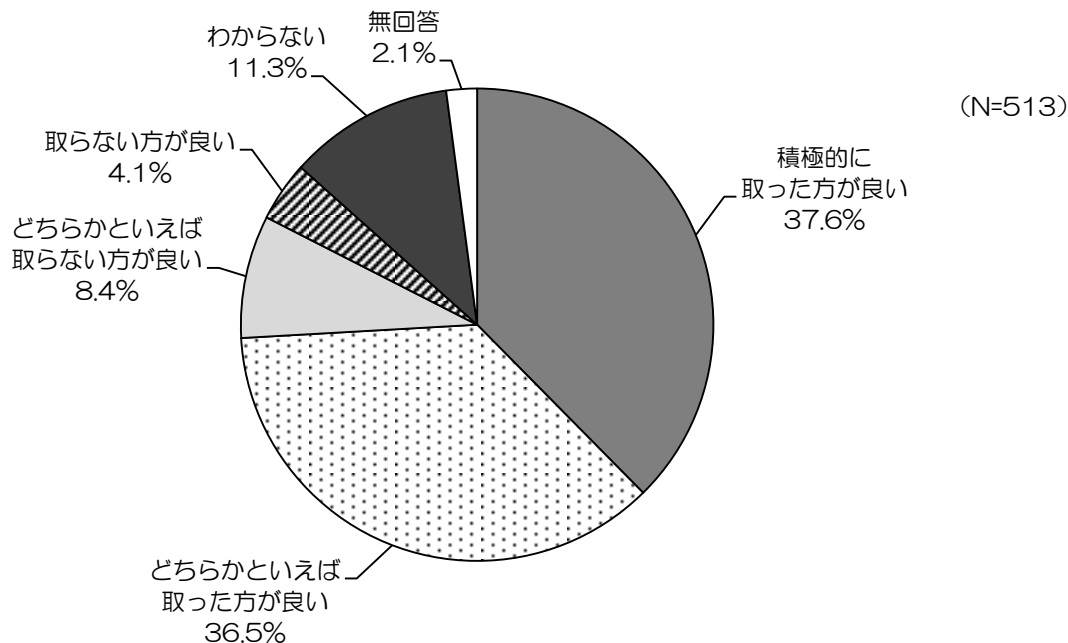
女性が働く上での障害は、「育児施設の不足」が49.3%と最も多く、次いで「育児休暇が取得しにくいこと」が43.9%、「長時間労働や残業」が43.7%などとなっています。

年齢別にみると、“60歳以上”では「長時間労働や残業」が43.5%と最も多くなっています。

〈20. 男性が育児休業をとることについての考え方〉

問20 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのようにお考えになりますか。（それぞれ1つを選択）

①育児休業



(単位：% (調査数は人))

	調査数	積極的に取った方が良い	どちらかといえば取った方が良い	どちらかといえば取らない方が良い	取らない方が良い	わからない	無回答
全体	513	37.6	36.5	8.4	4.1	11.3	2.1
男性	224	35.7	35.7	8.5	4.0	14.3	1.8
女性	285	39.6	37.5	8.4	3.9	8.4	2.1
18~29歳	69	56.5	27.5	4.3	1.4	10.1	0.0
30~39歳	81	38.3	38.3	16.0	3.7	3.7	0.0
40~49歳	101	40.6	28.7	8.9	5.9	14.9	1.0
50~59歳	107	34.6	43.0	5.6	4.7	10.3	1.9
60歳以上	153	29.4	39.9	7.8	3.9	13.7	5.2

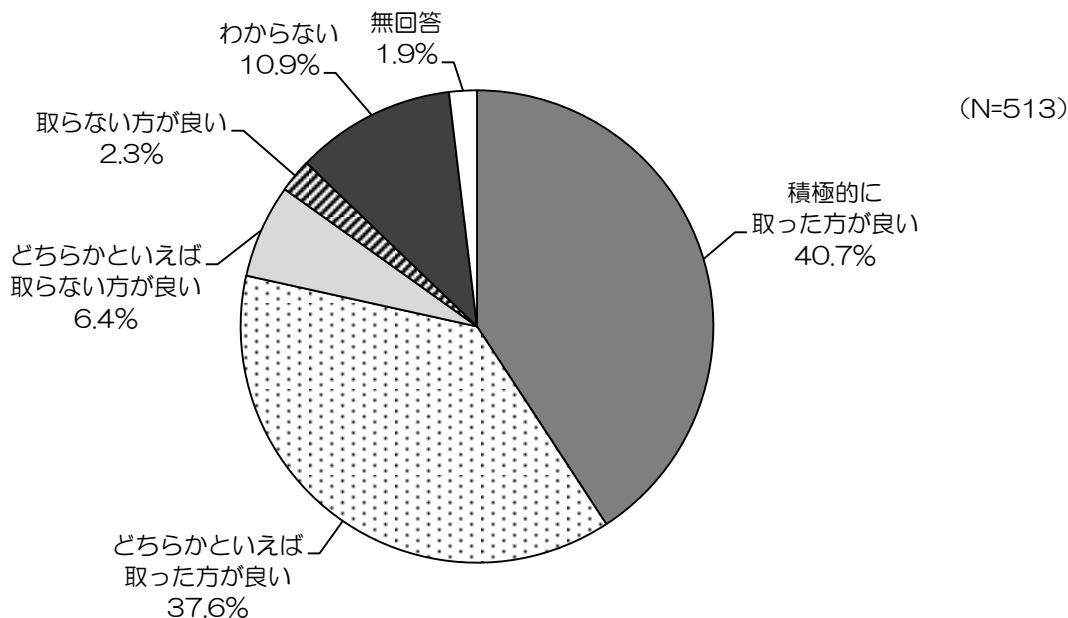
男性が育児休業をとることについての考え方は、「積極的に取った方が良い」が37.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば取った方が良い」が36.5%、「わからない」が11.3%などとなっています。

性別にみると、「女性」で「積極的に取った方が良い」と「どちらかといえば取った方が良い」をあわせた『取った方が良い』が77.1%と、「男性」と比べて5.7ポイント多くなっています。

〈21. 男性が介護休業をとることについての考え方〉

問20 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのようにお考えになりますか。(それぞれ1つを選択)

②介護休業



(単位：% (調査数は人))

	調査数	積極的に取った方が良い	どちらかといえば取った方が良い	どちらかといえば取らない方が良い	取らない方が良い	わからない	無回答
全体	513	40.7	37.6	6.4	2.3	10.9	1.9
男性	224	36.2	39.7	4.9	3.1	13.8	2.2
女性	285	44.9	36.1	7.7	1.4	8.1	1.8
18~29歳	69	58.0	29.0	2.9	0.0	8.7	1.4
30~39歳	81	42.0	39.5	8.6	3.7	6.2	0.0
40~49歳	101	41.6	31.7	9.9	2.0	13.9	1.0
50~59歳	107	38.3	43.0	3.7	3.7	10.3	0.9
60歳以上	153	34.0	40.5	6.5	2.0	12.4	4.6

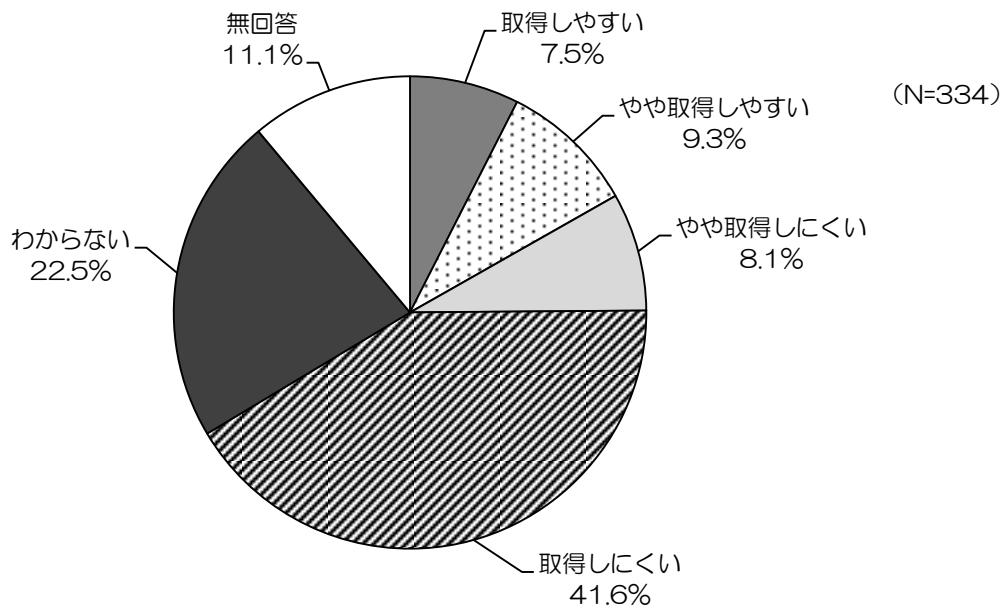
男性が介護休業をとることについての考え方は、「積極的に取った方が良い」が40.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば取った方が良い」が37.6%、「わからない」が10.9%などとなっています。

性別にみると、“女性”で「積極的に取った方が良い」と「どちらかといえば取った方が良い」をあわせた『取った方が良い』が81.0%と、“男性”と比べて5.1ポイント多くなっています。

〈22. 男性の育児休業の取得しやすさ〉

問21 現在お勤めの方だけに伺います。あなたの職場では、男性の育児休業・介護休業が取得しやすい環境（又は雰囲気）にありますか。（それぞれ1つを選択）

①育児休業



(単位：% (調査数は人))

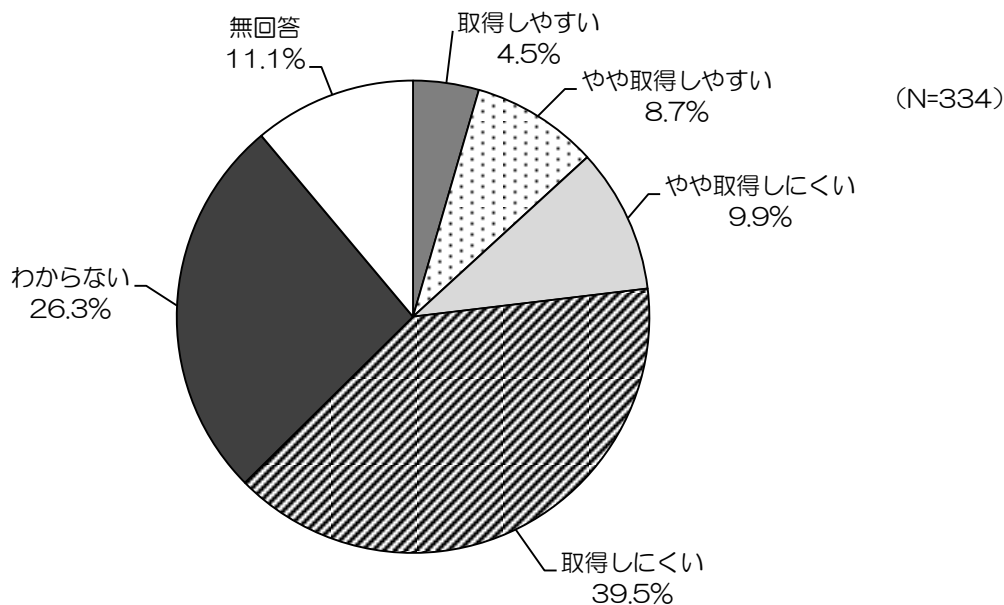
	調査数	取得しやすい	やや取得しやすい	やや取得しにくい	取得しにくい	わからない	無回答
全体	334	7.5	9.3	8.1	41.6	22.5	11.1
男性	169	8.3	5.3	9.5	46.2	20.1	10.7
女性	162	6.8	13.6	6.8	37.0	24.7	11.1
18~29歳	49	10.2	12.2	10.2	36.7	30.6	0.0
30~39歳	56	5.4	5.4	8.9	53.6	19.6	7.1
40~49歳	88	9.1	11.4	4.5	47.7	23.9	3.4
50~59歳	87	9.2	11.5	10.3	40.2	21.8	6.9
60歳以上	54	1.9	3.7	7.4	25.9	16.7	44.4

男性の育児休業の取得しやすさは、「取得しにくい」が41.6%と最も多く、次いで「やや取得しやすい」が9.3%、「やや取得しにくい」が8.1%などとなっています。また、「わからない」が22.5%となっています。性別にみると、「男性」で「取得しにくい」が46.2%と、「女性」と比べて9.2ポイント多くなっています。

〈23. 男性の介護休業の取得しやすさ〉

問21 現在お勤めの方だけに伺います。あなたの職場では、男性の育児休業・介護休業が取得しやすい環境（又は雰囲気）にありますか。（それぞれ1つを選択）

②介護休業



(単位：% (調査数は人))

	調査数	取得しやすい	やや取得しやすい	やや取得しにくい	取得しにくい	わからない	無回答
全体	334	4.5	8.7	9.9	39.5	26.3	11.1
男性	169	5.9	6.5	11.2	42.6	23.1	10.7
女性	162	3.1	11.1	8.6	36.4	29.6	11.1
18~29歳	49	6.1	6.1	12.2	34.7	40.8	0.0
30~39歳	56	0.0	8.9	10.7	50.0	23.2	7.1
40~49歳	88	6.8	10.2	10.2	42.0	27.3	3.4
50~59歳	87	5.7	10.3	10.3	41.4	25.3	6.9
60歳以上	54	1.9	5.6	5.6	25.9	16.7	44.4

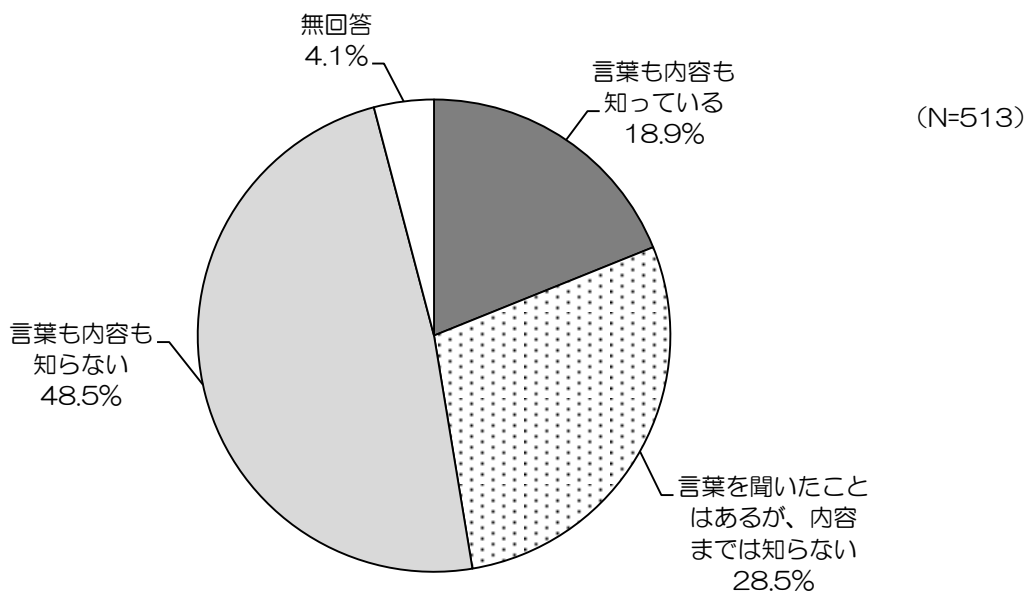
男性の介護休業の取得しやすさは、「取得しにくい」が39.5%と最も多く、次いで「やや取得しにくい」が9.9%、「やや取得しやすい」が8.7%などとなっています。また、「わからない」が26.3%となっています。性別にみると、「男性」で「取得しにくい」が42.6%と、「女性」と比べて6.2ポイント多くなっています。

Ⅵ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

〈24. ワーク・ライフ・バランスの認知〉

問22 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉をご存じですか。

（1つを選択）



（単位：%（調査数は人））

	調査数	言葉も内容も知っている	言葉を聞いたことはあるが、内容までは知らない	言葉も内容も知らない	無回答
全体	513	18.9	28.5	48.5	4.1
男性	224	26.3	31.7	38.4	3.6
女性	285	13.3	26.0	56.5	4.2
18～29歳	69	30.4	15.9	53.6	0.0
30～39歳	81	19.8	23.5	55.6	1.2
40～49歳	101	20.8	27.7	49.5	2.0
50～59歳	107	18.7	28.0	51.4	1.9
60歳以上	153	12.4	37.9	39.9	9.8

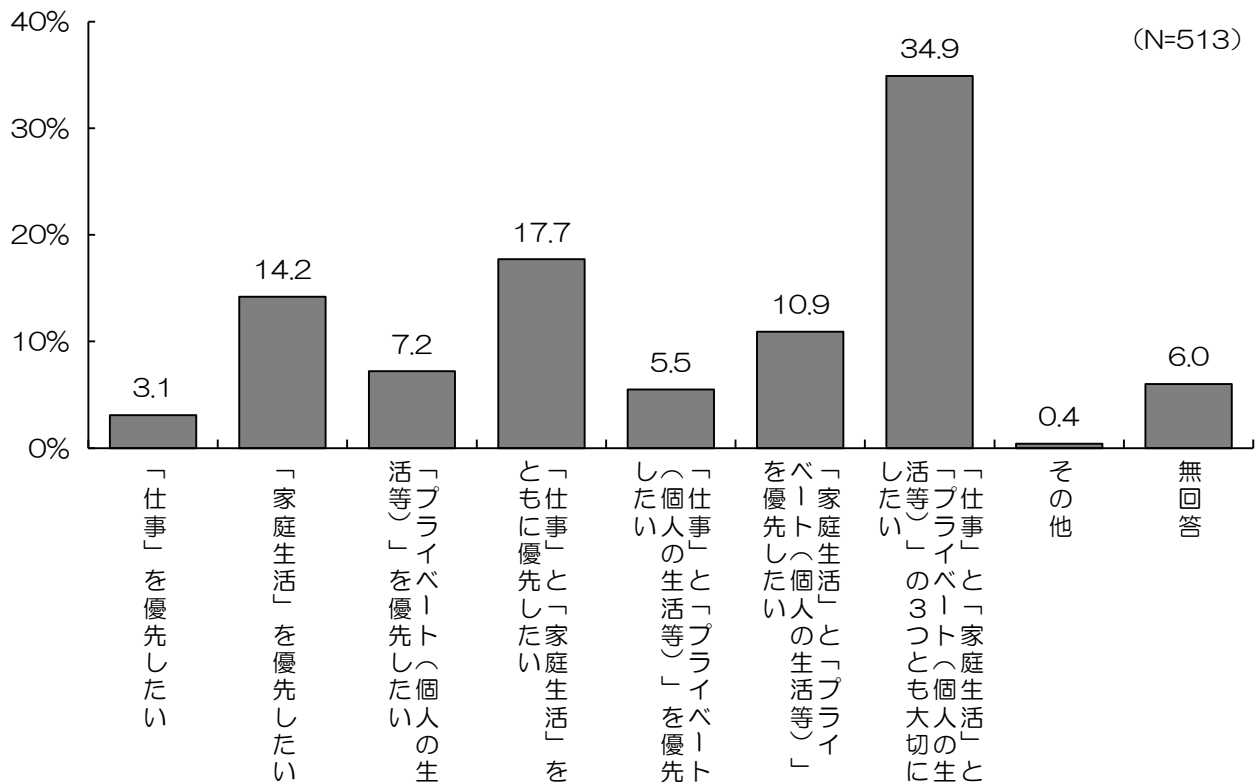
ワーク・ライフ・バランスの認知は、「言葉も内容も知らない」が48.5%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が28.5%、「言葉も内容も知っている」が18.9%となっています。

性別にみると、「女性」で「言葉も内容も知らない」が56.5%と、「男性」と比べて18.1ポイント多くなっています。

〈25. 仕事、家庭生活、プライベートの希望の優先度〉

問23 生活の中での「仕事」「家庭生活」「プライベート（個人の生活等）」で何を優先しますか。①あなたの希望と②あなたの現実について、最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。

①あなたの希望



(単位：% (調査数は人))

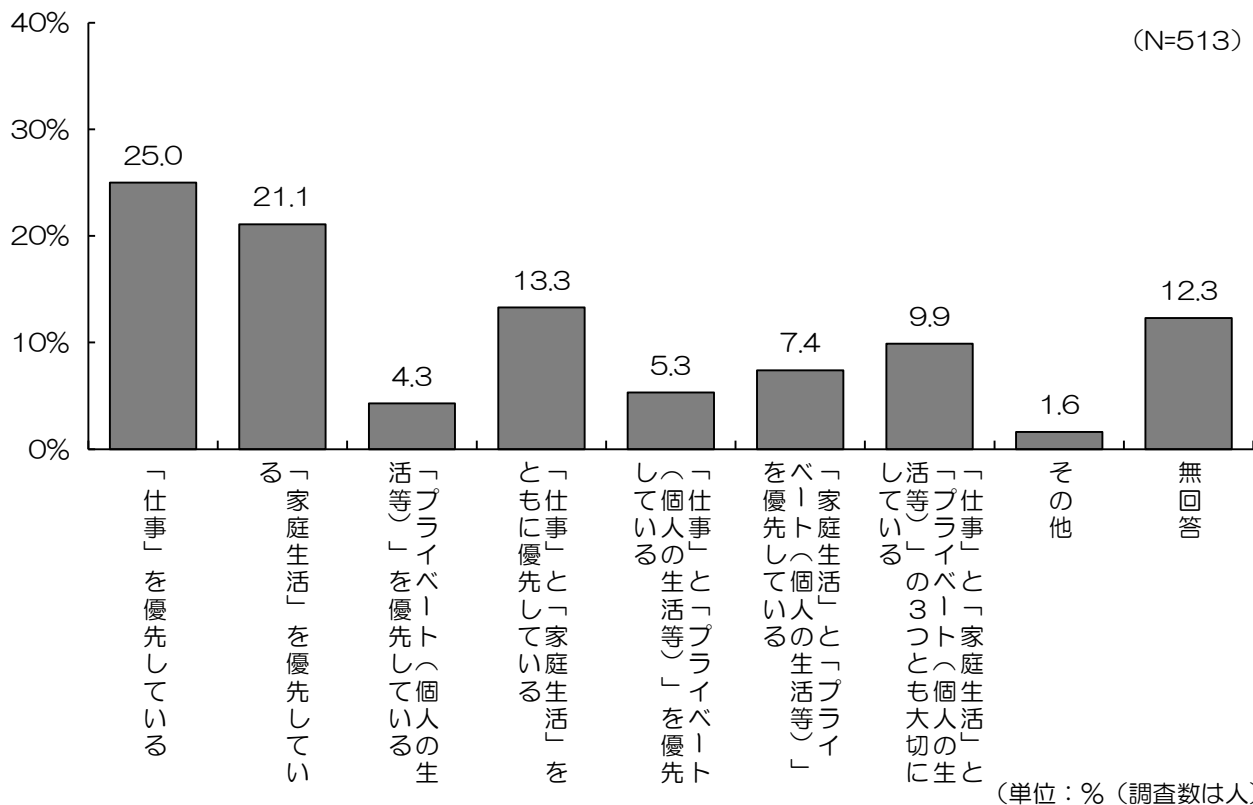
	調査数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「プライベート（個人の生活等）」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「プライベート（個人の生活等）」を優先したい	「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」を優先したい	「仕事」「プライベート」「家庭生活」の3つとも大切にしたい	その他	無回答
全体	513	3.1	14.2	7.2	17.7	5.5	10.9	34.9	0.4	6.0
男性	224	4.9	8.9	10.3	20.1	4.0	11.2	34.8	0.4	5.4
女性	285	1.4	18.6	4.9	15.8	6.7	10.9	35.1	0.4	6.3
18～29歳	69	1.4	10.1	15.9	10.1	10.1	17.4	34.8	0.0	0.0
30～39歳	81	0.0	21.0	7.4	24.7	4.9	13.6	25.9	0.0	2.5
40～49歳	101	2.0	11.9	7.9	18.8	6.9	11.9	38.6	0.0	2.0
50～59歳	107	5.6	13.1	5.6	15.0	7.5	4.7	47.7	0.0	0.9
60歳以上	153	4.6	15.0	3.9	18.3	1.3	10.5	28.8	1.3	16.3

仕事、家庭生活、プライベートの希望の優先度は、「仕事」と「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」の3つとも大切にしたい」が最も多く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が17.7%、「家庭生活」を優先したい」が14.2%などとなっています。

〈26. 仕事、家庭生活、プライベートの現実の優先度〉

問23 生活の中での「仕事」「家庭生活」「プライベート（個人の生活等）」で何を優先しますか。①あなたの希望と②あなたの現実について、最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。

②あなたの現実



	調査数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「プライベート（個人の生活等）」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「プライベート（個人の生活等）」を優先している	「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」を優先している	「生活等」の3つとも大切にしている	その他	無回答
全体	513	25.0	21.1	4.3	13.3	5.3	7.4	9.9	1.6	12.3
男性	224	33.9	5.4	5.4	15.6	5.8	7.1	12.1	1.8	12.9
女性	285	17.5	33.7	3.5	11.6	4.9	7.7	8.1	1.4	11.6
18～29歳	69	29.0	15.9	14.5	7.2	11.6	4.3	11.6	2.9	2.9
30～39歳	81	33.3	35.8	1.2	13.6	6.2	4.9	2.5	0.0	2.5
40～49歳	101	32.7	17.8	1.0	20.8	5.9	5.0	13.9	0.0	3.0
50～59歳	107	29.9	15.9	2.8	17.8	5.6	5.6	16.8	0.9	4.7
60歳以上	153	9.8	21.6	4.6	7.8	1.3	13.1	5.9	3.3	32.7

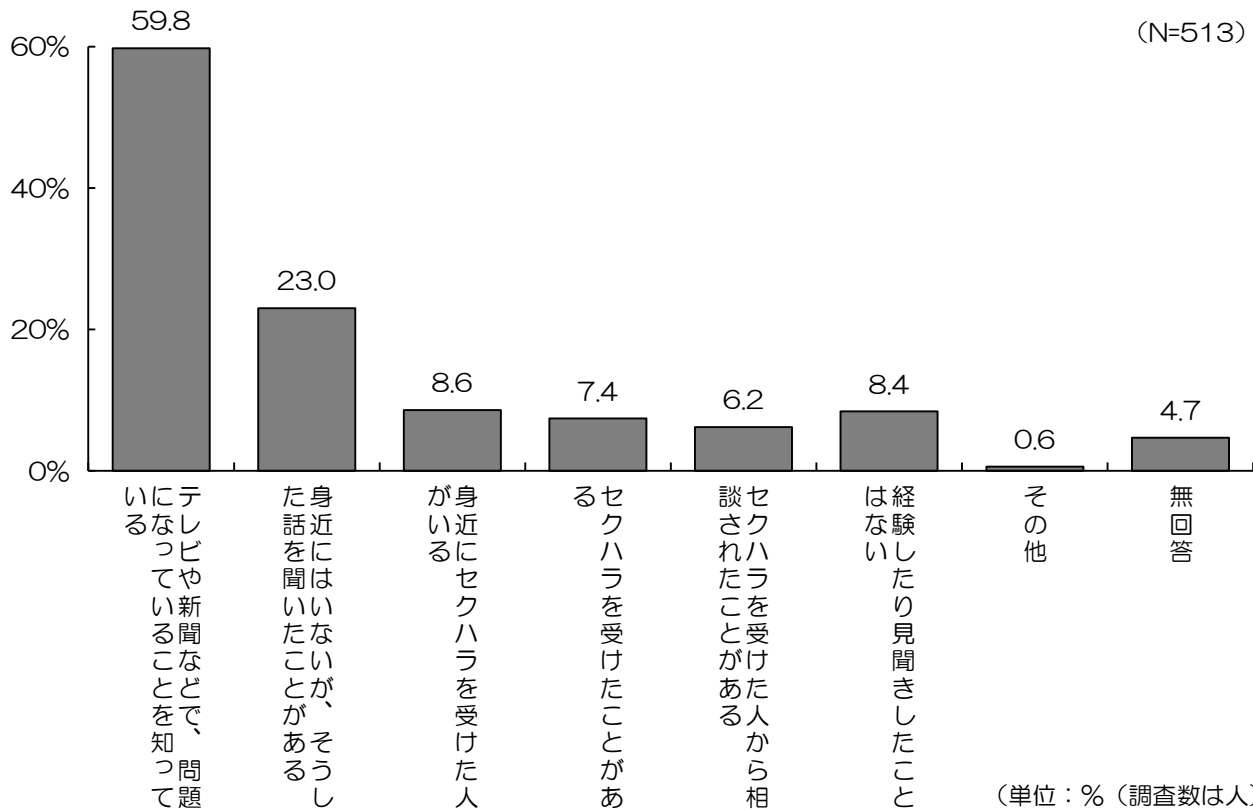
仕事、家庭生活、プライベートの現実の優先度は、「「仕事」を優先している」が25.0%と最も多く、次いで「家庭生活」を優先している」が21.1%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が13.3%などとなっています。

Ⅶ セクシュアル・ハラスメントについて

〈27. セクハラ経験の有無〉

問24 あなたは、これまでに、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。

（あてはまるもの全て選択可）



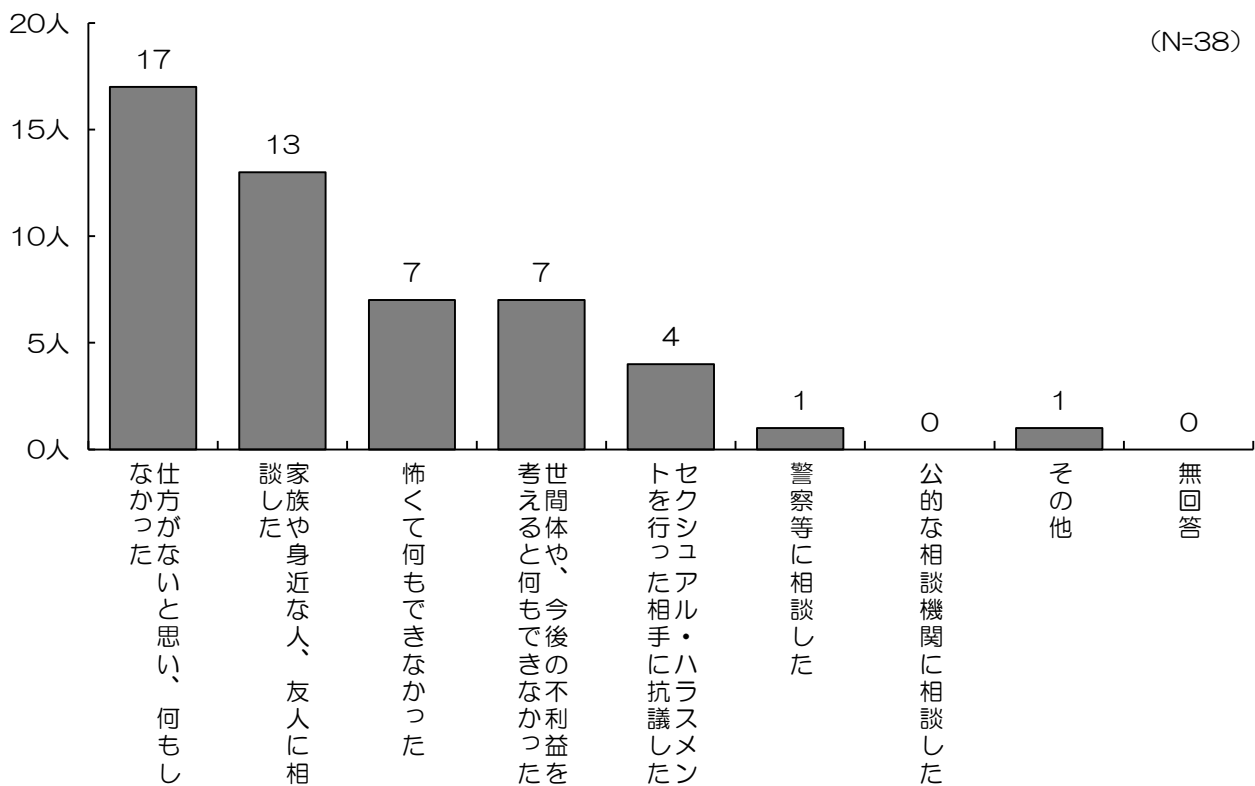
	調査数	知っていること テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	身近にセクハラを受けた人がいる	身近にセクハラを受けたことがある	セクハラを受けた人から相談されたことがある	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
全体	513	59.8	23.0	8.6	7.4	6.2	8.4	0.6	4.7
男性	224	63.8	24.6	8.9	2.2	7.1	7.6	0.9	4.9
女性	285	57.2	22.1	8.4	11.6	5.6	8.8	0.4	3.9
18～29歳	69	49.3	27.5	5.8	14.5	11.6	11.6	0.0	0.0
30～39歳	81	55.6	25.9	13.6	7.4	8.6	9.9	1.2	1.2
40～49歳	101	63.4	18.8	8.9	9.9	5.0	7.9	0.0	1.0
50～59歳	107	59.8	26.2	12.1	10.3	7.5	8.4	0.0	0.0
60歳以上	153	64.7	20.3	4.6	0.7	2.6	6.5	1.3	13.7

セクハラ経験の有無は、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が59.8%と最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が23.0%、「身近にセクハラを受けた人がいる」が8.6%などとなっています。また、「セクハラを受けたことがある」は7.4%となっています。

〈28. セクハラへの対応〉

〈問24で「1. セクハラを受けたことがある」と答えた方におたずねします。〉

問25 あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。（あてはまるもの全て選択可）



(単位：人)

	調査数	仕方がないと思い、何もしなかった	家族や身近な人、友人に相談した	怖くて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した	警察等に相談した	公的な相談機関に相談した	その他	無回答
全体	38	17	13	7	7	4	1	0	1	0
男性	5	2	1	1	0	2	0	0	0	0
女性	33	15	12	6	7	2	1	0	1	0
18～29歳	10	5	5	3	2	0	0	0	0	0
30～39歳	6	5	2	0	1	2	0	0	0	0
40～49歳	10	4	3	1	2	2	0	0	1	0
50～59歳	11	3	3	2	2	0	1	0	0	0
60歳以上	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

※調査数が少ないため、実数で表記しています。

セクハラへの対応は、「仕方がないと思い、何もしなかった」が17人と最も多く、次いで「家族や身近な人、友人に相談した」が13人、「怖くて何もできなかった」と「世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった」が7人などとなっています。

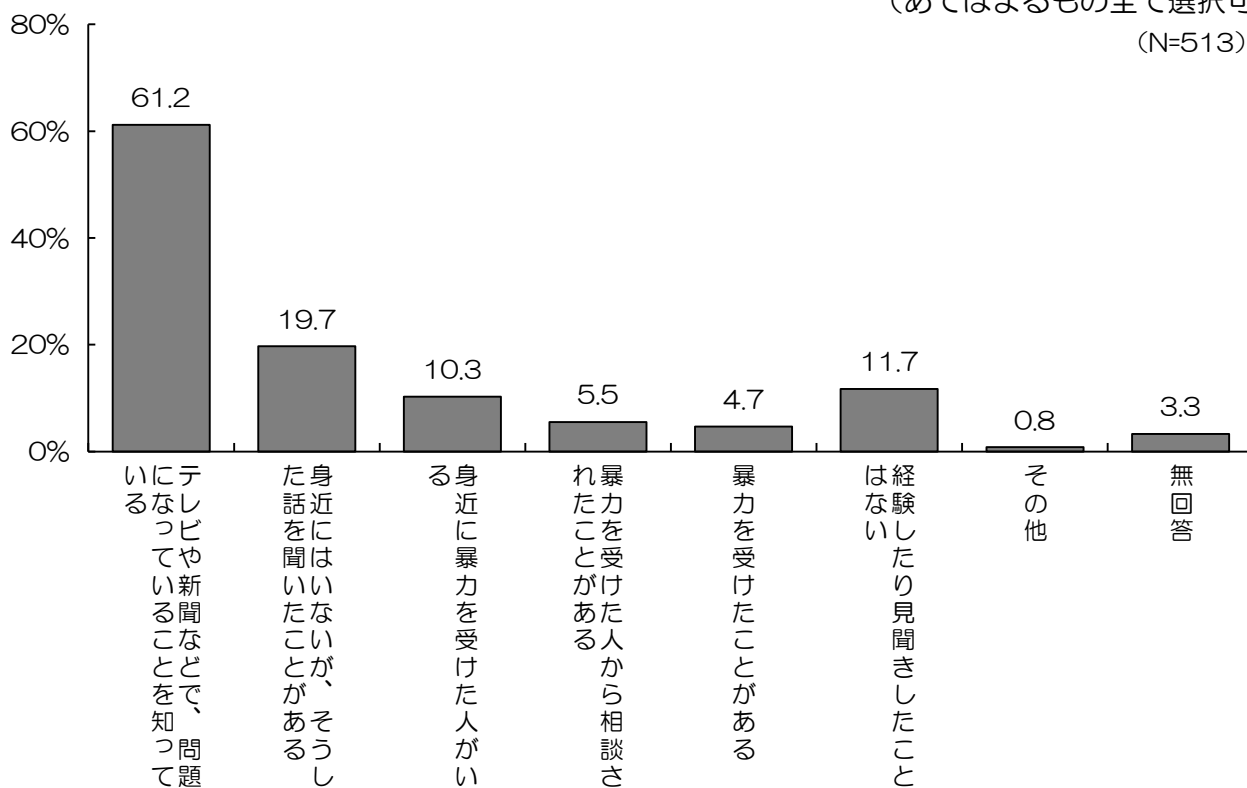
Ⅷ ドメスティック・バイオレンス (DV) について

〈29. DV経験の有無〉

問26 これまでに、夫・妻や恋人など親しい間柄にある男女間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、経験したり見聞きしたりしたことがありますか。

（あてはまるもの全て選択可）

（N=513）



（単位：%（調査数は人））

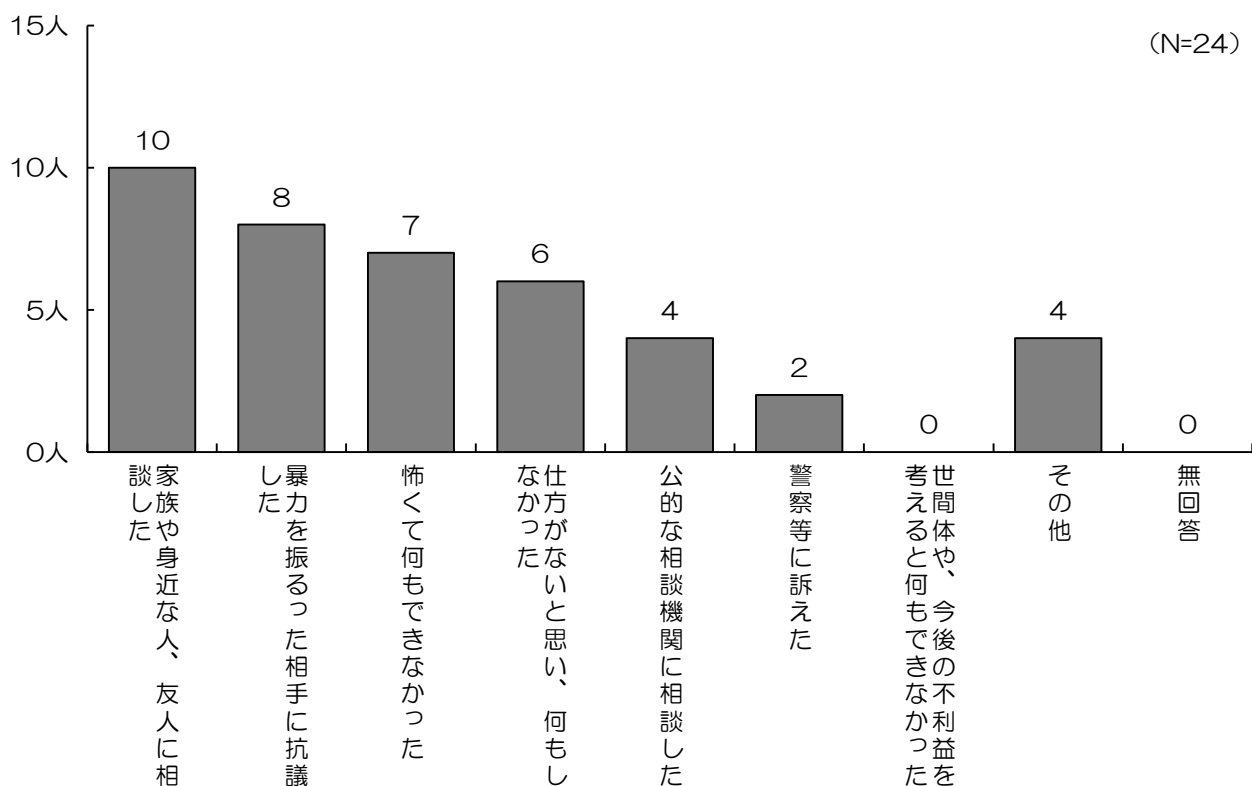
	調査数	知っていることになっている	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	身近に暴力を受けた人がいる	暴力を受けたことがある	暴力を受けたことがある	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
全体	513	61.2	19.7	10.3	5.5	4.7	11.7	0.8	3.3
男性	224	67.0	23.2	4.9	4.0	1.3	10.3	1.8	2.7
女性	285	57.2	17.2	14.4	6.7	7.4	12.6	0.0	3.5
18～29歳	69	59.4	21.7	7.2	5.8	5.8	11.6	0.0	1.4
30～39歳	81	50.6	21.0	17.3	9.9	7.4	19.8	0.0	1.2
40～49歳	101	68.3	9.9	10.9	2.0	4.0	10.9	2.0	0.0
50～59歳	107	66.4	24.3	13.1	6.5	5.6	7.5	0.0	0.0
60歳以上	153	59.5	21.6	5.2	4.6	2.6	11.1	1.3	9.8

DV経験の有無は、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が61.2%と最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が19.7%、「身近に暴力を受けた人がいる」が10.3%などとなっています。また、「暴力を受けたことがある」は4.7%となっています。

〈30. DVへの対応〉

〈問26で「1. 暴力を受けたことがある」と答えた方に伺います。〉

問27 夫・妻や恋人から暴力を受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。
(あてはまるもの全て選択可)



(単位：人)

	調査数	家族や身近な人、友人に相談した	暴力を振るった相手に抗議した	怖くて何もできなかった	仕方がないと思い、何もしなかった	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
全体	24	10	8	7	6	4	2	0	4	0
男性	3	1	1	1	1	2	1	0	0	0
女性	21	9	7	6	5	2	1	0	4	0
18~29歳	4	3	1	2	0	0	0	0	0	0
30~39歳	6	3	4	2	2	1	0	0	0	0
40~49歳	4	1	0	1	2	2	1	0	1	0
50~59歳	6	2	1	1	2	1	1	0	2	0
60歳以上	4	1	2	1	0	0	0	0	1	0

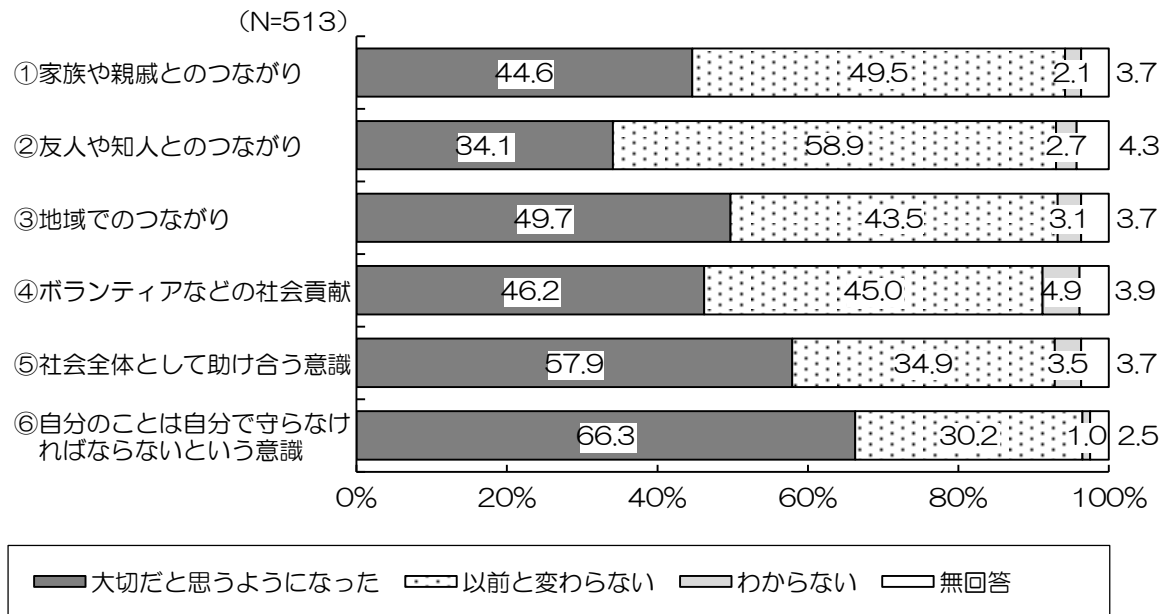
※調査数が少ないため、実数で表記しています。

DVへの対応は、「家族や身近な人、友人に相談した」が10人と最も多く、次いで「暴力を振るった相手に抗議した」が8人、「怖くて何もできなかった」が7人などとなっています。

Ⅸ 防災・復興について

＜31. 東日本大震災前後の意識の変化＞

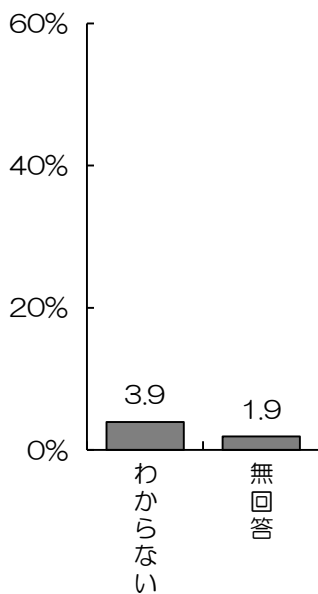
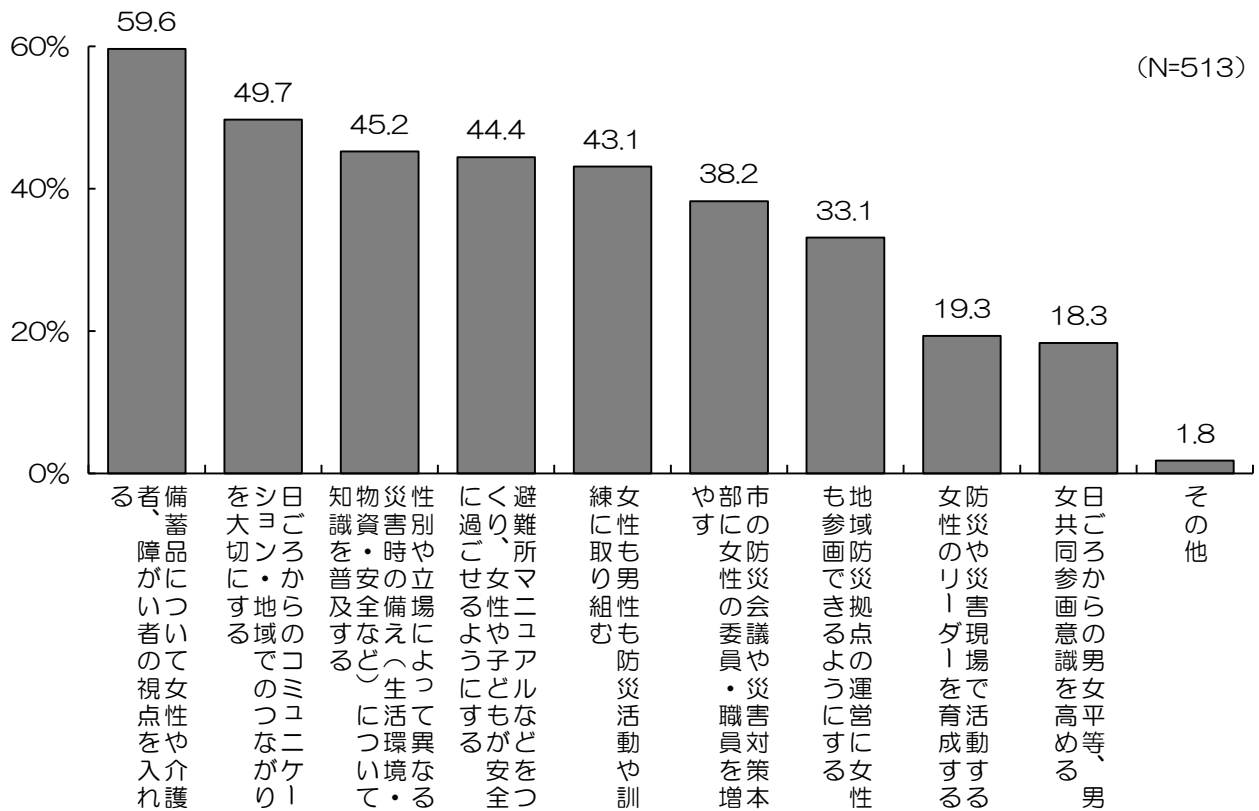
問28 東日本大震災以前（平成23年3月11日以前）と現在を比べて、以下の①～⑥の項目について考え方が変わりましたか。（それぞれ1つを選択）



東日本大震災前後の意識の変化は、「大切だと思うようになった」は“⑥自分のことは自分で守らなければならないという意識”で66.3%と最も多くなっています。一方、「以前と変わらない」は“②友人や知人とのつながり”で58.9%と最も多くなっています。

<32. 災害対応への女性参画のために必要な施策>

問29 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していない、平時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(あてはまるもの全て選択可)



(単位：％ (調査数は人))

	調査数	備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる	日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする	性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する	避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす	地域防災拠点の運営に女性も参加できるようにする	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他
全体	513	59.6	49.7	45.2	44.4	43.1	38.2	33.1	19.3	18.3	1.8
男性	224	56.3	49.1	44.6	43.3	51.8	44.6	41.5	23.2	24.1	1.8
女性	285	63.2	50.2	46.3	46.0	36.5	33.7	27.0	16.5	14.0	1.8
18～29歳	69	55.1	47.8	42.0	44.9	49.3	34.8	24.6	11.6	20.3	1.4
30～39歳	81	67.9	45.7	49.4	55.6	43.2	48.1	37.0	16.0	22.2	0.0
40～49歳	101	58.4	42.6	56.4	49.5	35.6	43.6	28.7	16.8	8.9	2.0
50～59歳	107	73.8	55.1	46.7	43.0	43.0	35.5	40.2	21.5	19.6	1.9
60歳以上	153	49.0	54.2	36.6	36.6	45.8	32.7	33.3	24.8	20.9	2.6

	調査数	わからない	無回答
全体	513	3.9	1.9
男性	224	2.2	0.9
女性	285	4.9	2.5
18～29歳	69	8.7	0.0
30～39歳	81	3.7	0.0
40～49歳	101	4.0	0.0
50～59歳	107	2.8	0.9
60歳以上	153	2.6	5.2

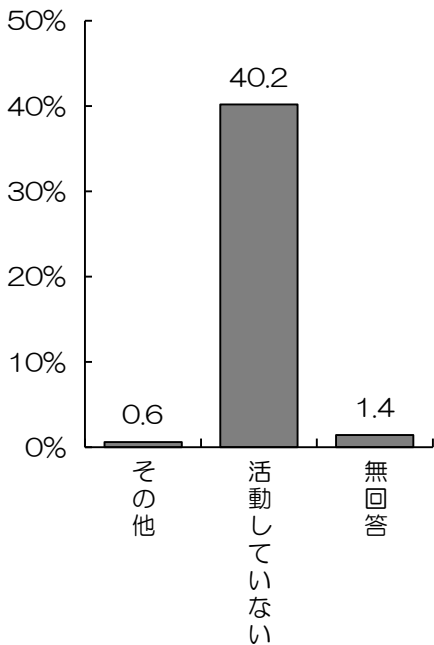
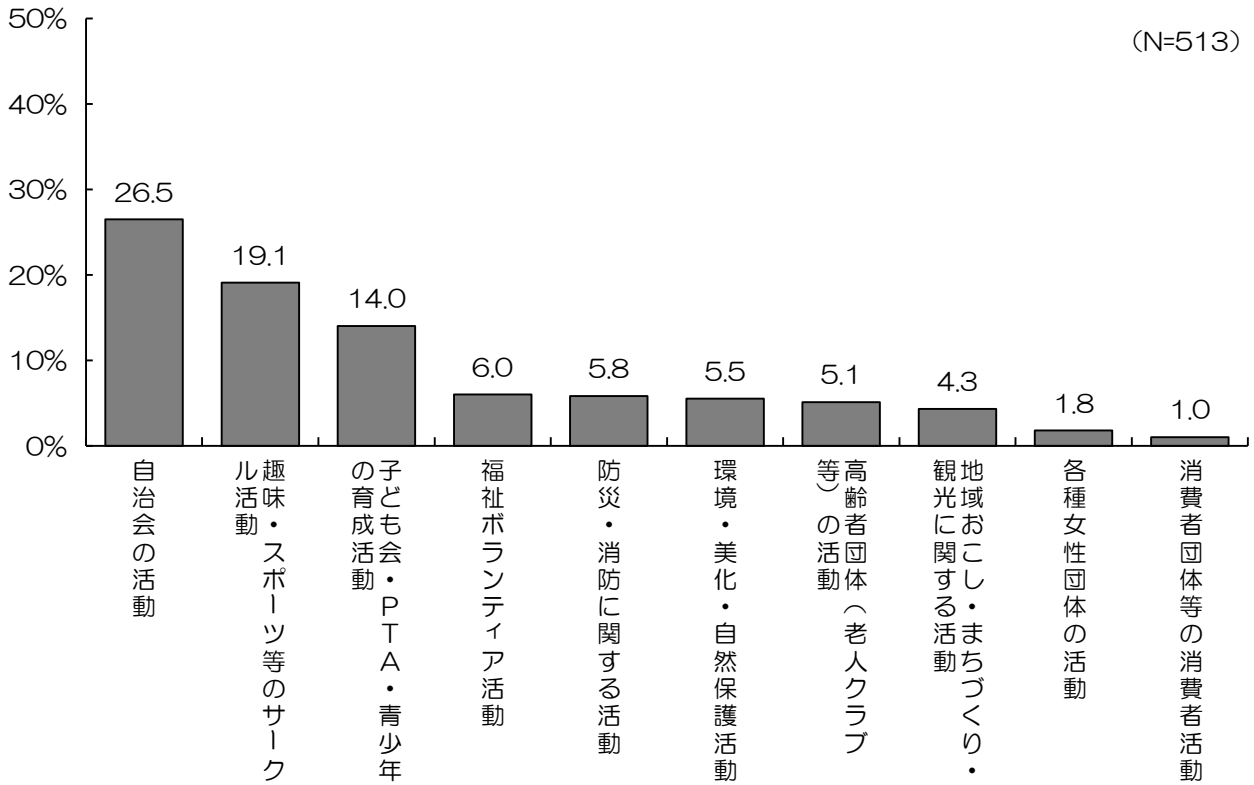
災害対応への女性参画のために必要な施策は、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が59.6%と最も多く、次いで「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が49.7%、「性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する」が45.2%などとなっています。

性別にみると、“男性”で「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が51.8%と、“女性”と比べて15.3ポイント多くなっています。

X 男女の社会参加について

〈33. 参加している活動〉

問30 あなたが現在参加している活動をお答えください。(あてはまるもの全て選択可)



(単位：％ (調査数は人))

	調査数	自治会の活動	趣味・スポーツ等のサークル活動	子ども会・PTA・青少年の育成活動	福祉ボランティア活動	防災・消防に関する活動	環境・美化・自然保護活動	高齢者団体(老人クラブ等)の活動	地域おこし・まちづくり・観光に関する活動	各種女性団体の活動	消費者団体等の消費者活動
全体	513	26.5	19.1	14.0	6.0	5.8	5.5	5.1	4.3	1.8	1.0
男性	224	30.8	18.3	10.3	5.4	7.1	8.5	4.5	7.6	0.9	1.3
女性	285	23.2	20.0	17.2	6.7	4.6	3.2	5.3	1.8	2.1	0.7
18～29歳	69	2.9	14.5	5.8	2.9	2.9	1.4	0.0	4.3	0.0	0.0
30～39歳	81	21.0	14.8	34.6	3.7	3.7	4.9	0.0	2.5	0.0	1.2
40～49歳	101	29.7	19.8	24.8	0.0	5.0	4.0	0.0	3.0	0.0	0.0
50～59歳	107	43.0	15.9	11.2	9.3	7.5	0.9	0.0	4.7	1.9	0.0
60歳以上	153	26.1	25.5	2.0	10.5	7.8	11.8	17.0	5.9	4.6	2.6

	調査数	その他	活動していない	無回答
全体	513	0.6	40.2	1.4
男性	224	0.4	39.3	0.4
女性	285	0.7	41.1	1.8
18～29歳	69	1.4	72.5	1.4
30～39歳	81	1.2	35.8	0.0
40～49歳	101	1.0	38.6	0.0
50～59歳	107	0.0	34.6	0.9
60歳以上	153	0.0	33.3	2.6

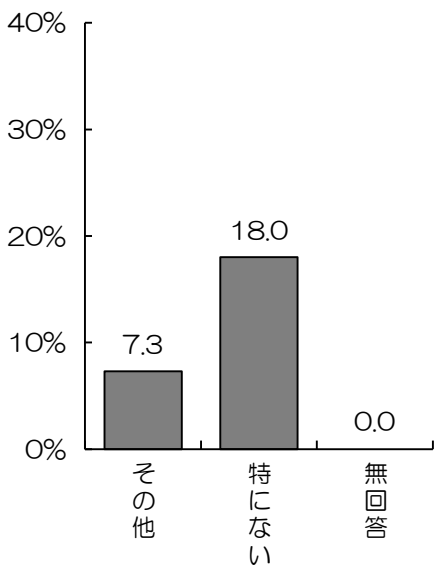
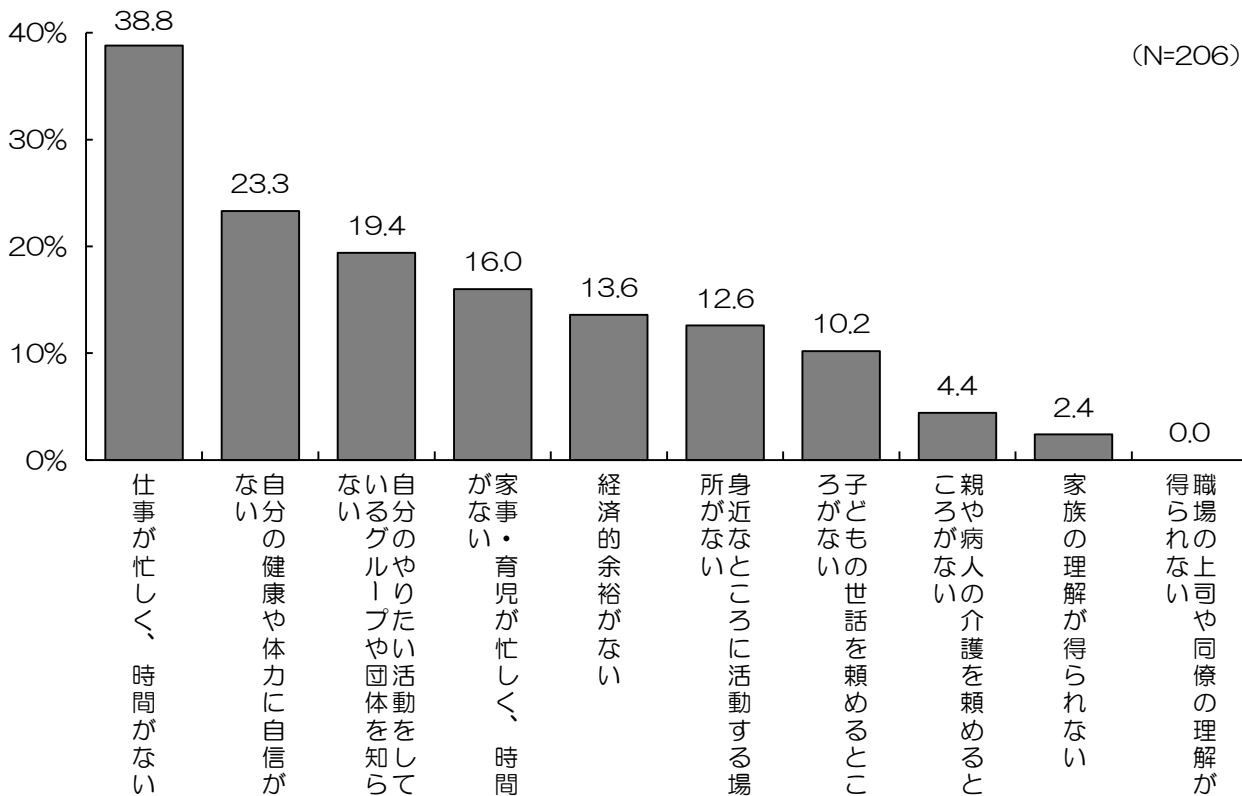
参加している活動は、「自治会の活動」が26.5%と最も多く、次いで「趣味・スポーツ等のサークル活動」が19.1%、「子ども会・PTA・青少年の育成活動」が14.0%などとなっています。

年齢別にみると、“18～29歳”では「趣味・スポーツ等のサークル活動」が14.5%と最も多くなっています。また、“30～39歳”では「子ども会・PTA・青少年の育成活動」が34.6%と最も多くなっています。

<34. 活動していない理由>

<問30で「12. 活動していない」と答えた方のみお答えください。>

問31 あなたが活動していない理由は何ですか。（あてはまるもの全て選択可）



(単位：% (調査数は人))

	調査数	仕事が忙しく、時間がない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	家事・育児が忙しく、時間がない	経済的余裕がない	身近なところに活動する場所がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない
全体	206	38.8	23.3	19.4	16.0	13.6	12.6	10.2	4.4	2.4	0.0
男性	88	46.6	19.3	20.5	2.3	12.5	9.1	3.4	1.1	0.0	0.0
女性	117	33.3	26.5	18.8	26.5	14.5	15.4	15.4	6.8	4.3	0.0
18～29歳	50	48.0	4.0	30.0	20.0	12.0	18.0	18.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	29	44.8	6.9	17.2	37.9	24.1	17.2	17.2	0.0	3.4	0.0
40～49歳	39	41.0	20.5	15.4	15.4	15.4	7.7	10.3	7.7	2.6	0.0
50～59歳	37	48.6	27.0	27.0	10.8	10.8	13.5	2.7	10.8	2.7	0.0
60歳以上	51	17.6	51.0	7.8	3.9	9.8	7.8	3.9	3.9	3.9	0.0

	調査数	その他	特にない	無回答
全体	206	7.3	18.0	0.0
男性	88	8.0	22.7	0.0
女性	117	6.8	13.7	0.0
18～29歳	50	10.0	12.0	0.0
30～39歳	29	17.2	13.8	0.0
40～49歳	39	2.6	30.8	0.0
50～59歳	37	2.7	18.9	0.0
60歳以上	51	5.9	15.7	0.0

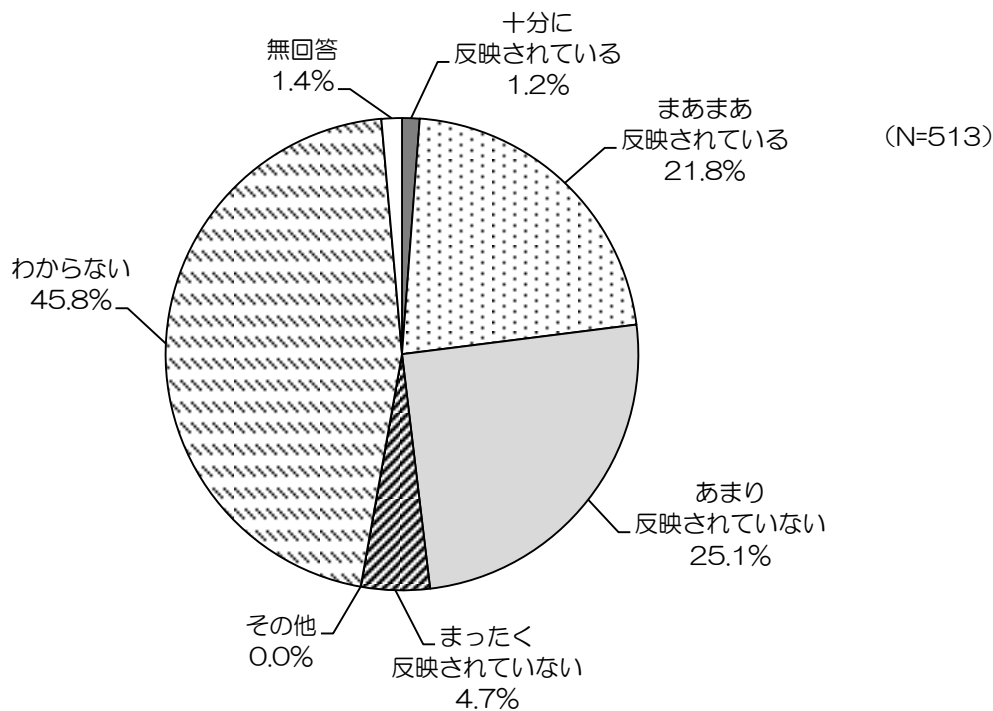
活動していない理由は、「仕事が忙しく、時間がない」が38.8%と最も多く、次いで「自分の健康や体力に自信がない」が23.3%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が19.4%などとなっています。

性別にみると、「女性」で「家事・育児が忙しく、時間がない」が26.5%と、「男性」と比べて24.2ポイント多くなっています。

年齢別にみると、「60歳以上」では「自分の健康や体力に自信がない」が51.0%と最も多くなっています。

<35. 市政への女性の意見の反映>

問32 あなたは市政に女性の意見が反映されていると思いますか。(1つを選択)



(単位：% (調査数は人))

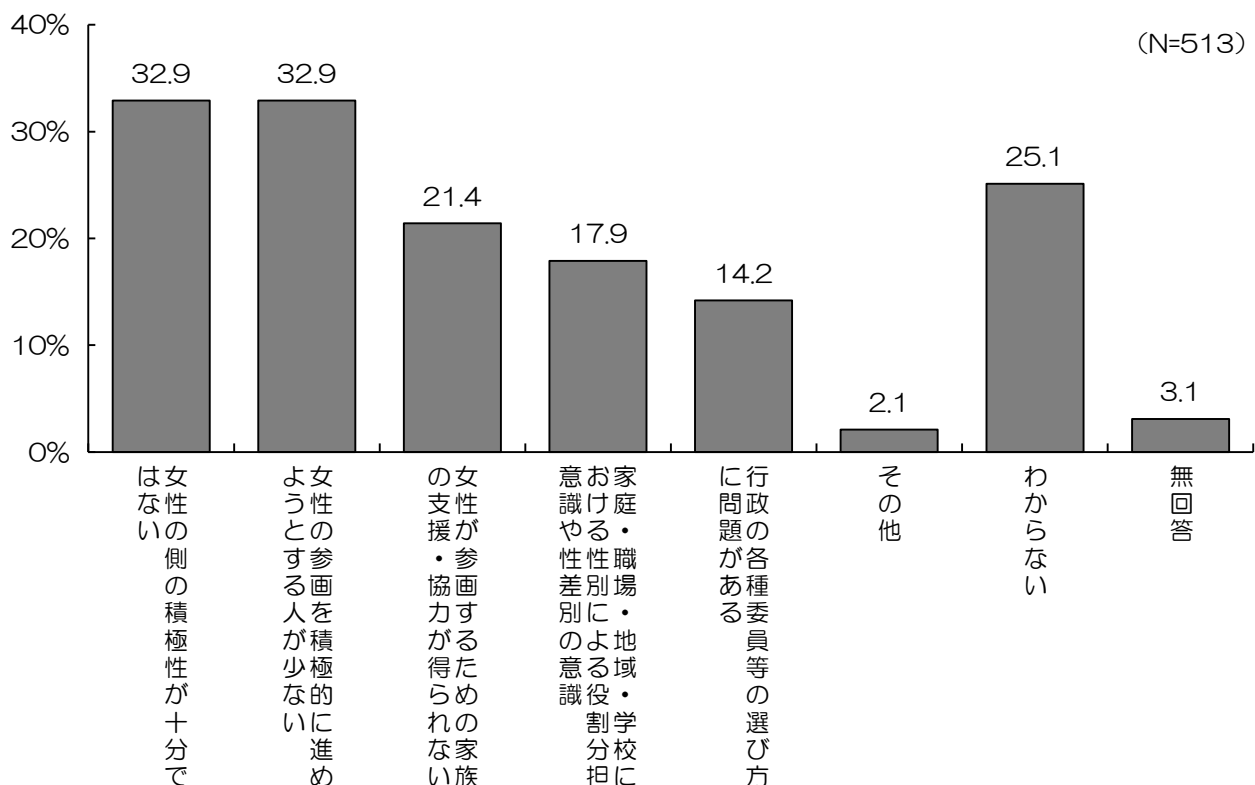
	調査数	十分に反映されている	まあまあ反映されている	あまり反映されていない	まったく反映されていない	その他	わからない	無回答
全体	513	1.2	21.8	25.1	4.7	0.0	45.8	1.4
男性	224	2.7	26.3	26.8	3.6	0.0	40.2	0.4
女性	285	0.0	18.2	23.9	5.6	0.0	50.5	1.8
18~29歳	69	1.4	15.9	18.8	7.2	0.0	55.1	1.4
30~39歳	81	0.0	11.1	23.5	7.4	0.0	58.0	0.0
40~49歳	101	1.0	28.7	19.8	3.0	0.0	47.5	0.0
50~59歳	107	1.9	21.5	28.0	5.6	0.0	42.1	0.9
60歳以上	153	1.3	26.1	30.1	2.6	0.0	37.3	2.6

市政への女性の意見の反映は、「あまり反映されていない」が25.1%と最も多く、次いで「まあまあ反映されている」が21.8%、「まったく反映されていない」が4.7%などとなっています。また、「わからない」が45.8%などとなっています。

<36. 湖西市審議会等の女性委員が少ない理由>

問33 湖西市における女性の審議会等委員は男性より少ないですが、このことについて、あなたはその理由は何だと思いますか。（複数選択可）

※参考：審議会等の女性委員の割合 平成26年度実績34.4%



(単位：% (調査数は人))

	調査数	女性の側の積極性が十分ではない	女性の参画を積極的に進めようとする人が少ない	女性が参画するための家族の支援・協力が得られない	家庭・職場・地域・学校における性別による役割分担意識や性差別の意識	行政の各種委員等の選び方に問題がある	その他	わからない	無回答
全体	513	32.9	32.9	21.4	17.9	14.2	2.1	25.1	3.1
男性	224	31.3	33.9	18.8	12.5	17.4	2.2	25.4	2.7
女性	285	34.4	32.6	23.9	22.5	11.9	2.1	24.2	3.5
18～29歳	69	33.3	29.0	20.3	21.7	8.7	2.9	30.4	0.0
30～39歳	81	30.9	40.7	28.4	25.9	8.6	6.2	19.8	1.2
40～49歳	101	37.6	26.7	18.8	19.8	14.9	3.0	27.7	1.0
50～59歳	107	37.4	33.6	30.8	15.0	18.7	0.9	19.6	1.9
60歳以上	153	28.1	34.6	13.7	13.1	16.3	0.0	26.8	7.8

湖西市審議会等の女性委員が少ない理由は、「女性の側の積極性が十分ではない」と「女性の参画を積極的に進めようとする人が少ない」が32.9%と最も多く、次いで「女性が参画するための家族の支援・協力が得られない」が21.4%、「家庭・職場・地域・学校における性別による役割分担意識や性差別の意識」が17.9%などとなっています。

〈37. 男女共同参画についての自由意見〉

男女共同参画についてご意見等ありましたらご自由にお書きください。

- 行政は平等であり男女共同参画は今もこれからも重要。社会全体で考え、実行していく必要がある。政治も同じ。
- 男は仕事、女は家庭という昔ながらの概念を変えて、職場でも出産、育児についてもっと協力的になっていただきたいです。
- 社会がどういう風にならっていくのかと、湖西市としてどう変わっていく、変わりたいかは別。市長の考えが見えない。重要視しているのか。
- なぜ男女5：5にしなければならないのか。国会議員も女性が少ないが出馬しないから選びようがない。少数派を助けることは逆差別を生む可能性がある。
- 市役所では男女共同参画進んでいますか。
- 無理に人数を同じにする必要はないと思う。向いている人、やる気もあり知識のある人なら男女問わず参画できる環境があればよいと思う。
- 肉体的、性的において世界と同じように同行するという事はおかしな話です。日本は日本としての文化があります。
- 参画の内容が多様で、これをやってみたいと考えても、社会的制限があるものもあると考えるから、できる人に任せておくしかない、と考えます。
- 委員や役員に女性の数を増やせばいいという問題ではないと思う。女性が働きやすい、地域の場に出ていきやすい職場や家庭の環境を整えること。そのために、男性・女性ともに意識改革が必要だし、男性が家庭のことにも力を注げるような仕事の環境にすることが必要だと思う。
- 審議会の委員の選び方を知りません。また、どのような形で市民の声が市政に反映されているのか不明です。子育ての制度に関して、当事者が策定に関わっていないのではないかと思うような、不思議な部分が多いと感じています。
- 最近、女性の社会での活躍について推進するという方向性ですが、女性が仕事もする、家事もするでは、女性の負担が増えるだけのような気がします。女性の貧困の対策にもっと真剣に取り組んで欲しい。
- 社会的な風習みたいなものがあり、男だから仕事とか、女だから子育てというのがどこを見てもある気がします。そういう面での負担を少しでも和らげられたら助かる人も多いと思います。
- 大きな集まりだと、率直な意見を言えない場合が多いので、小さいコミュニティで意見の吸い上げをすることも大切だと思う。年代によって、同性どうしても意見は変わるので、広範囲で年代、性別を選別した方がいいと思う。
- 労働時間、職種、平等になりつつありますが、賃金が低すぎると思う。職種は今まで男性が多かった所に女性が進出できるようになりましたが、体力的に男性と一緒に働けない所はおかしいと思う。
- もっと条例を使って他の市町に先んじて動かないと人口減少の市になってしまうのでは。残念ながら法律や自治体の積極的な変革の意識がないと市民は目先に奪われて、先将来を見なくなってしまっているのでは。
- 男女共同参画も必要だと思うが、家にいて家族の事を考えたいという人もいるのであまりにも男女共同のような意見を強くしすぎると専業主婦の事を悪く言う人が増える気がする。

- 男だから、女だからという固定観念のある人が上にいる限り、できないと思う。本気で市の事を考えていれば、女性の力、考え方は必要だと思う。
- 中高齢者では男女共同参画に無理があるかと。これからの若者に期待したい。そうなっていくような社会作りをしていただきたい。
- ただひたすら女性の社会進出ばかりを訴える人が多いが、男性が家庭の生活に参画することを先に考えるべき。ただ女性が出ていくだけでは犠牲になるのは家庭、子どもたち。例えば、子どもが病気になった時、母親が仕事を休むのが当たり前という考えが一般的である時点で、男女共同参画は実現しない。男性・共働きの役場の方々は、自分の子どもが熱を出したとき自分から看病のために自分が休むと言えますか。女性側の環境改善より、男性側の環境改革の方が重要と感じます。
- 能力があれば差別なく活躍できる世の中になっていると思う。
- 何でもかんでも共同というのはおかしい。そもそも脳の構造、働き、体のつくりが違うのだから。それぞれが得意なことを分担すれば良い。ただ、男でも女性的な人、女性でも男性的な人もある確率でいるので、男100%女0%、とか女100%男0%というのはどちらもおかしい。男が100%だと不公平といわれることが多いのに、女100%だと問題にならないのはおかしい。
- 男性の職場、職場関係からの開放がすべてのはじまりになる。
- 女性側の意識の問題も大きいと思いますし、そもそも男女は違うものであるという視点から、何でもかんでも同等とするのは難しい。体力、性質の違いを踏まえた上で平等を考えるべき。
- 湖西に住み始めて間もないからそもそもそういう事がある事すら知らない。
- 男女は、それぞれ良い所があり、悪い所もある。仕事・家庭・地域において、適材適所で活動することが大事だと思います。男女の完全なる平等を目指しても、あり得ないと思います。互いに話し合い、互いを理解し、助け合えばと思います。
- 女性の社会的地位が向上することで、共働き世帯、単身世帯が増えているが、子育てをされていて感じることは、働きたくて働いている母親は少ないということです。収入の減少によって、男性一人分の稼ぎでは家族を養うことが難しいため、小さな子供を預けて働きに出なければならない女性が増えています。今の社会の流れを見ていると、女性の社会的地位の向上を重視するあまり、働かないで専業主婦をするという選択肢がなくなってしまっているように感じます。難しい事だとは思いますが、男性も女性もいくつかの選択肢をもてる社会になっていくことを期待します。
- やたらに制度や社会、他人に原因を求めるアンケートであった。男女が何事にも等しく参画するのが難しいのではない。個々本気で何をしようとしているかに問題がある。
- 女性が会議等に参加する場合、公的な立場で適確な意見を端的に述べられる様、知識を深めることその他、自己研鑽も努めることが大きな課題であると思われる。問33の比率で女性がやや多い会議に出席すると、的はずれな私的な話や方向性が異なる事柄で大切な時間が費されてしまい、会議ではなくランチタイムの女子会に参加している様な感覚を覚えることが多々あり、人数を増やせばよいというものではない。人選に問題あり。
- 一般の主婦でも参加できるようにメールでも意見が言えるよう整備してほしいし、情報を提供してほしい。

- 女性の方が不利、平等でないと思っている所がダメ。何をするにも男のみ・女のみと区別をしない事があたり前になる世の中になる事を願います。
- どんな事をしているのか、よく分かりません。
- なぜ今、男女共同参画など古い事を言っているのか解からない。男だろうが女だろうが、できる人がやる。年齢も関係なく、すぐれている人が人を引っぱれば良いと思う。その結果男性が多いならそれはベストだと思う。若い子達はそんな考えがあるのかを知った上で、考え直すべき事ではないだろうか。将来の事をもっと先を見すえた方が良いと思う。
- PR不足では。委員は何をするのか。任命したい人への勧め方。
- 女性にしかできないこと、男性にしかできないこと、どちらでもできること、かならず違いは生まれます。必要なのは平等ではなく、対等であること。女性だから、男性だから理由にならない。決めつけはよくない。しかし、できないのにそれ以上の金銭などを求めるのは性別関係なくまちがっている。
- 女性は感情的で論理的ではないイメージがあります。参画まで行かなくても、女性の意見を男性が反映しやすい環境になってくれたら良いと思います。
- 女性が能力を生かして活躍できる社会であってほしいと思うが、安心して専業主婦になり、出産、育児できる環境がないと少子化が進んでしまう。経済的な理由で共働きを選択し、子供をあきらめる人も多い。男女共同参画と少子化対策をセットで考えると良いと思う。
- 湖西市として、分晚できる施設を設けて欲しい。安心して産める社会が、女性の活躍を促すと思う。
- 女性の意識改革が必要。企業も女性の活躍に期待するも、女性の意識が不足している様子。
- あまり女性の為、女性の為の、と言われる事に違和感がある。男女平等とはいえ女性には女性にしか出来ない事があると思う。全てを男性と平等にと言うなら優遇してほしいと言ってはいけないと思う。都合のいい所だけ女性が差別されていると言わないでほしいと思う。
- 湖西市の行政、審議会などに、どんどん女性の声や役員などにとりあげていく。育休、介護休業など、まず行政が手本を示すべき。アンケートをとっても実行しなければ意味がない。先例ばかりにならないでほしい。
- 女性でも、素晴らしい人材は沢山いらっしゃると思います。そういう方々が活躍できる場が沢山あると、社会はより良くなっていくのではないかと思います。その為には、どうしたらいいかを考えていけたらいいのではと考えます。
- 男性、女性と言っていることが差別。すべて同じ仕事ができるのかできないのかで比べれば良い。
- 育児をしている期間は、職場でもっと休みや早退など取りやすくしてもらえると女性も社会進出ができると思う。又、女性ももっと積極的に社会に出て行こうとしたほうが良いと思う。
- 近年、男女平等はより強くなりつつあるが、女性の社会進出は結構。しかしながら、女性の立場が急に強くなったためか男性に対する情勢がおいてきぼりになっている感がある。あくまで平等・対等をうたうなら、女性はその立場を利用して逃げない様にすることが真の男女平等ではないか。

3. 調査票

問4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(兼業の方は主なものをお選びください。)

(1つを選択)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 会社員、公務員・その他勤め人 | 2. パート・アルバイト・派遣社員 |
| 3. 自営業(農林漁業、商工業等) | 4. 専業主婦(専業主夫も含む) |
| 5. 学生 | 6. 無職 |
| 7. その他() | |

問5 あなたは結婚していますか。(1つを選択)

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 結婚している(事実婚を含む) | 2. 結婚していない |
| 3. 結婚していたが、離婚・死別した | |

→〈問5で「1. 結婚している(事実婚を含む)」とお答えの方に伺います。〉

問6 現在、共働きをしていますか。(1つを選択)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 共働き(共にフルタイム) | 2. 共働き(いずれかがパート・アルバイト) |
| 3. 共働き(共にパート・アルバイト) | 4. 共働きでない |
| 5. どちらも働いていない | |

問7 あなたは高校生以下のお子さんがいらっしゃいますか。(1つを選択)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問8 あなたを含めたご家族の中に介護・介助が必要な方がいらっしゃいますか。(1つを選択)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

Ⅱ 以下の言葉・考え方についてお伺いします

問9 『男女共同参画』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。(1つを選択)

- | | | | |
|------------|------------|--------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 少し知っている | 3. 言葉だけ知っている | 4. 知らない |
|------------|------------|--------------|---------|

問10 『ユニバーサルデザイン』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。(1つを選択)

- | | | | |
|------------|------------|--------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 少し知っている | 3. 言葉だけ知っている | 4. 知らない |
|------------|------------|--------------|---------|

問11 『多文化共生』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。(1つを選択)

- | | | | |
|------------|------------|--------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 少し知っている | 3. 言葉だけ知っている | 4. 知らない |
|------------|------------|--------------|---------|

Ⅲ 社会における男女平等についてお伺いします

・性別役割分担意識とは

「男は仕事、女は家庭・育児」、「男はたくましく積極的、女はやさしく控えめ」、「男が代表、女は補助」というように性別によって固定的に役割を分担する考え方のこと。

・参画とは

物事を決める場に、ただ席にいて「参加」するだけでなく、決定にいたるまでの相談や議論に主体的に加わっていくこと。

問12 『男は仕事、女は家庭』というような男女の役割を固定的に考えること(性別役割分担意識)について、あなたはどのようにお考えですか。(1つを選択)

- | | | | |
|---------|--------------|----------|----------|
| 1. 同感する | 2. どちらともいえない | 3. わからない | 4. 同感しない |
|---------|--------------|----------|----------|

問13 あなたは、次のことがらについて、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれ1つを選択)

	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 就職	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 地域(自治会・PTA等)	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会通念や慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
⑨ 社会全体	1	2	3	4	5	6

問14 男女平等社会を実現するために大切だと思うことはどのようなことですか。

(3つまで選択可)

1. 法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念・慣習しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識や技術を習得すること
4. 女性の就業や社会参加を支援するサービス(研修や講座など)の充実を図ること
5. 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用し充実すること
6. 育児休暇と介護休暇の充実、取得しやすい社会づくりを進めること
7. 子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革
8. 学校や生涯教育の場で男女平等教育を推進すること
9. 夫(妻)や家族の理解や協力を得ること
10. 男女平等に関する普及啓発
11. 地域活動(町内会・自治会など)で女性・若者が意見を言いやすい環境づくりを推進すること
12. 市民が市民活動への参加を行うこと
13. その他(具体的に: _____)
14. 特にない

問15 男女平等社会の実現を図るために、今後、行政はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。(3つまで選択可)

1. 平等意識を育てる学校教育の充実
2. 家庭や職場などあらゆる場における男女平等への理解を深めるための学習機会の促進や意識啓発
3. 女性問題に関する情報提供、交流・相談窓口などの充実
4. 女性の職業教育・訓練の機会の充実
5. 男性の料理教室、介護教室、子育てなどの学習機会の提供
6. 就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
7. 育児・保育施設や支援事業の充実
8. 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実
9. 民間企業等への女性の参画についての意識啓発
10. 行政の政策決定や審議会への積極的な女性の登用
11. 地域活動(町内会・自治会など)で女性・若者が意見を言いやすい環境づくりの推進
12. 市内の女性団体・グループとその活動内容の情報ネットワークづくり
13. その他(具体的に: _____)
14. 特になし

IV 家庭生活における役割分担についてお伺いします

問16 あなたのご家庭では、次のことがらについて主に誰が分担していますか。(それぞれ1つを選択)

	主に妻	主に夫	妻と夫が 半々	家 族 全 員	その他 の 人	自分 (単身者)	該 当 な し
① 家計を支える(生活費を稼ぐ)	1	2	3	4	5	6	7
② 掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする	1	2	3	4	5	6	7
③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする	1	2	3	4	5	6	7
④ 日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 育児、子どものしつけをする	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 家族の介護・介助をする	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 自治会・町内会などの地域活動を行う	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 子どもの教育方針や進学目標を決める	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 高額の商品や土地家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6	7

問17 男女の役割分担について、本来はどうあるべきだと思いますか。(1つを選択)

1. 男は仕事、女は家事・育児を分担する
2. 男は仕事、女は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする
3. 男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女が分担する
4. 男女ともに仕事をし、家事・育児は男女で分担する
5. 女は仕事、男は家事・育児という分担でもかまわない
6. その他(具体的に: _____)
7. わからない

V 職業や労働についてお伺いします

問18 あなたは、「女性と職業」についてどのようにお考えですか。(1つを選択)

1. 女性は職業をもたないほうがよい
2. 結婚するまで職業をもつほうがよい
3. 子どもができるまで職業をもつほうがよい
4. 出産・育児期間は仕事をやめ、成長したら再び職業をもつほうがよい
5. 定年(生涯)職業をもち続けるほうがよい
6. その他(具体的に: _____)
7. わからない

▶ <問18で「2.～5.」とお答えの方に伺います。>

問19 女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全て選択可)

1. 結婚・出産退職等の慣行
2. 賃金の男女格差
3. 昇進・昇格における男女の格差
4. 仕事内容における男女の格差
5. 長時間労働や残業
6. 雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと
7. 育児休暇が取得しにくいこと
8. 育児施設の不足
9. 介護休暇が取得しにくいこと
10. 介護施設の不足
11. 職場における人間関係
12. 家族に反対されたり、協力が得られないこと
13. 女性自身の知識や技術の不足
14. 女性自身の就業意識が低いこと
15. その他(具体的に: _____)
16. 特にない
17. わからない

問20 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのようにお考えになりますか。

(それぞれ1つを選択)

	積極的に取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	わからない
① 育児休業	1	2	3	4	5
② 介護休業	1	2	3	4	5

問21 現在お勤めの方だけに伺います。あなたの職場では、男性の育児休業・介護休業が取得しやすい環境（又は雰囲気）にありますか。（それぞれ1つを選択）

	取得しやすい	やや取得しやすい	やや取得しにくい	取得しにくい	わからない
① 育児休業	1	2	3	4	5
② 介護休業	1	2	3	4	5

VI ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてお伺いします

・ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは

やりがいのある仕事と充実した生活（子育てや家庭生活だけでなく、地域活動や趣味・学習などあらゆる活動が含まれる。）を両立させながら、個人の能力を最大限発揮できるように支援する考え方や施策のこと。

仕事優先から仕事と生活のバランスがとれた働き方や生き方への展開が求められるようになってきている。

問22 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉をご存じですか。（1つを選択）

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉を聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない

問23 生活の中での「仕事」「家庭生活」「プライベート（個人の生活等）」で何を優先しますか。

①あなたの希望と②あなたの現実について、最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。

①あなたの希望

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「プライベート（個人の生活等）」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「プライベート（個人の生活等）」を優先したい
6. 「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」を優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」の3つとも大切にしたい
8. その他（具体的に：_____）

②あなたの現実

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「プライベート（個人の生活等）」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「プライベート（個人の生活等）」を優先している
6. 「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」を優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「プライベート（個人の生活等）」の3つとも大切にしている
8. その他（具体的に：_____）

Ⅶ セクシュアル・ハラスメントについてお伺いします

・セクシュアル・ハラスメントとは

職場・学校・地域活動等において、本人の意に反した攻撃的で屈辱的な性的言動や勧誘により、仕事などをしていくうえで、一定の不利益を受けたり、環境が悪化したりすること。

問24 あなたは、これまでに、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（あてはまるもの全て選択可）

1. セクハラを受けたことがある
2. 身近にセクハラを受けた人がいる
3. セクハラを受けた人から相談されたことがある
4. 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
5. テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
6. 経験したり見聞きしたことはない
7. その他（具体的に：_____）

▶<問24で「1. セクハラを受けたことがある」と答えた方におたずねします。>

問25 あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。（あてはまるもの全て選択可）

1. セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した
2. 家族や身近な人、友人に相談した
3. 公的な相談機関に相談した
4. 警察等に相談した
5. 仕方がないと思い、何もしなかった
6. 怖くて何もできなかった
7. 世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった
8. その他（具体的に：_____）

次のページに続きます→

Ⅷ ドメスティック・バイオレンス（DV）についてお伺いします

☆立ち入った質問になりますが、この調査は無記名で行っておりますので、回答された方に御迷惑がかかることは一切ありません。調査へのご協力をお願いします。

・ドメスティック・バイオレンス（DV）とは
配偶者や恋人などのパートナーから、殴る、蹴る、物を投げつけるなどの身体的暴力、レイプなどの性的暴力、ののしる、おどす、無視するなどの精神的暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力を受けること。

問26 これまでに、夫・妻や恋人など親しい間柄にある男女間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、経験したり見聞きしたりしたことがありますか。

（あてはまるもの全て選択可）

1. 暴力を受けたことがある
2. 身近に暴力を受けた人がいる
3. 暴力を受けた人から相談されたことがある
4. 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
5. テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
6. 経験したり見聞きしたことはない
7. その他（具体的に： _____）

▶<問26で「1. 暴力を受けたことがある」と答えた方に伺います。>

問27 夫・妻や恋人から暴力を受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。

（あてはまるもの全て選択可）

1. 暴力を振るった相手に抗議した
2. 家族や身近な人、友人に相談した
3. 公的な相談機関に相談した
4. 警察等に訴えた
5. 仕方がないと思い、何もできなかった
6. 怖くて何もできなかった
7. 世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった
8. その他（具体的に： _____）

Ⅸ 防災・復興についてお伺いします

問28 東日本大震災以前（平成23年3月11日以前）と現在を比べて、以下の①～⑥の項目について考え方が変わりましたか。（それぞれ1つを選択）

	大切だと思 うように なった	以前と変わ らない	わからない
① 家族や親戚とのつながり	1	2	3
② 友人や知人とのつながり	1	2	3
③ 地域でのつながり	1	2	3
④ ボランティアなどの社会貢献	1	2	3
⑤ 社会全体として助け合う意識	1	2	3
⑥ 自分のことは自分で守らなければならないという意識	1	2	3

問29 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していない、平時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(あてはまるもの全て選択可)

1. 市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
2. 地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする
3. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
4. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
5. 避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする
6. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
7. 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
8. 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
9. 性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する
10. その他(具体的に: _____)
11. わからない

X 男女の社会参加についてお伺いします

問30 あなたが現在参加している活動をお答えください。(あてはまるもの全て選択可)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 福祉ボランティア活動 | 2. 自治会の活動 |
| 3. 子ども会・PTA・青少年の育成活動 | 4. 高齢者団体(老人クラブ等)の活動 |
| 5. 各種女性団体の活動 | 6. 消費者団体等の消費者活動 |
| 7. 趣味・スポーツ等のサークル活動 | 8. 環境・美化・自然保護活動 |
| 9. 防災・消防に関する活動 | 10. 地域おこし・まちづくり・観光に関する活動 |
| 11. その他(_____) | 12. 活動していない |

▶問30で「12. 活動していない」と答えた方のみお答えください。

問31 あなたが活動していない理由は何ですか。(あてはまるもの全て選択可)

1. 仕事が忙しく、時間がない
2. 家事・育児が忙しく、時間がない
3. 子どもの世話を頼めるところがない
4. 親や病人の介護を頼めるところがない
5. 自分の健康や体力に自信がない
6. 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない
7. 身近なところに活動する場所がない
8. 経済的余裕がない
9. 家族の理解が得られない
10. 職場の上司や同僚の理解が得られない
11. その他(具体的に: _____)
12. 特になし

問32 あなたは市政に女性の意見が反映されていると思いますか。(1つを選択)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 十分に反映されている | 2. まあまあ反映されている |
| 3. あまり反映されていない | 4. まったく反映されていない |
| 5. その他(_____) | 6. わからない |

問33 湖西市における女性の審議会等委員は男性より少ないですが、このことについて、あなたはその理由は何だと思えますか。(複数選択可)

※参考：審議会等の女性委員の割合 平成26年度実績34.4%

1. 行政の各種委員等の選び方に問題がある
2. 家庭・職場・地域・学校における性別による役割分担意識や性差別の意識
3. 女性の側の積極性が十分ではない
4. 女性の参画を積極的に進めようとする人が少ない
5. 女性が参画するための家族の支援・協力が得られない
6. その他(具体的に：_____)
7. わからない

男女共同参画についてご意見等ありましたらご自由にお書きください。

XI 多文化共生にかかわることについてお伺いします

問34 あなたは外国に住んだことがありますか。外国での居住経験のある人は、外国に通算何年住んでいましたか。(1つを選択)

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 外国に住んだことはない | 2. 通算1年未満 |
| 3. 通算1年以上 5年未満 | 4. 通算5年以上 |

問35 あなたは外国人と以下のような付き合いがありますか。(あてはまるもの全て選択可※過去の経験を含む)

1. 一緒に働いている(働いていた)
2. 学校で一緒に勉強している(していた)
3. 友人としてつき合っている(つき合っていた)
4. 自分または親せきが外国人と結婚して日本に住んでいる(住んでいた)
5. 国際交流グループで一緒に活動している(していた)
6. 子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)
7. 宗教活動(教会など)を通じて、一緒に活動している(していた)
8. その他のグループや地域活動と一緒に参加している(していた)
9. 外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)
10. 外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない

問36 あなたが生活している地域で、外国人と顔を合わせるがよくありますか。(1つを選択)

- | | | | |
|---------|-----------|----------|---------|
| 1. よくある | 2. ときどきある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|---------|-----------|----------|---------|

問37 地域で暮らす外国人についてどの程度親しみを感じますか。(1つを選択)

1. 親しみを感じる 2. どちらかといえば感じる 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば感じない 5. 親しみを感じない

問38 あなたが生活している地域に外国人が増えることに賛成ですか、反対ですか。(1つを選択)

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対 4. 反対

→ <賛成の理由>

→ <反対の理由>

問39 あなたは日本に外国人が増えるるとどのような影響があると思いますか。それぞれの項目についてあなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つを選択)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①社会に多様性が生れる	1	2	3	4
②日本固有の文化がそこなわれる	1	2	3	4
③地域経済の活性化に貢献する	1	2	3	4
④日本人の仕事が奪われる	1	2	3	4
⑤外国語を学ぶ機会が増える	1	2	3	4
⑥治安が悪化する	1	2	3	4

問40 多文化共生に関する次の意見についてあなたはどう思いますか。(それぞれ1つを選択)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①外国人は、自分自身の努力で、日本の言語や文化を身につけるべきだ	1	2	3	4
②外国人は、日本社会にとけこむよう、日本の習慣やルールを学ぶべきだ	1	2	3	4
③外国人は、地域の活動に積極的に参加すべきだ	1	2	3	4
④行政は、外国人が日本の言語や文化を学べるよう援助すべきだ	1	2	3	4
⑤行政は、外国人がかれら自身の言語や文化を守れるよう援助すべきだ	1	2	3	4
⑥日本人は、地域に住む外国人の言語や文化を学ぶべきだ	1	2	3	4

問41 地域を在住外国人とともに暮らしやすい社会にするため、私たち日本人は何をすべきと思いますか。(あてはまるもの全て選択可)

1. 外国人に対する差別意識をもたないようにする
2. 日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする
3. 日本語や日本文化を外国人に教える
4. 日本で生活するルールを外国人が守るように呼びかける
5. 地域住民との交流や地域の活動に外国人の参加を呼びかける
6. 外国語の言葉や文化を学ぶ

問42 日本人住民と在住外国人がともに暮らしやすい社会にしていくために、あなたは行政はどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるもの全て選択可)

1. 行政サービス情報を多言語で表記する
2. 緊急時に防災情報を多言語で放送する
3. 労働相談や生活相談をしやすいように多言語の通訳をつける
4. 医療通訳を充実する
5. 無料の日本語教室を開く
6. 日本人と外国人の交流の場を設ける
7. 生活相談などに対して丁寧に対応する窓口を設ける
8. 公営住宅を充実させる
9. 企業に対して労働規約の遵守などを指導する
10. 職業訓練を受けやすいようにカリキュラムを工夫する
11. 外国人に対して差別がなくなるように外国文化などを理解する機会を設ける

多文化共生についてご意見等ありましたらご自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました市民意識調査票は同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、
7月21日（火）までにご投函くださいますようお願い申し上げます。